

数学科学習指導案

令和4年4月27日(水)第6校時
3年C組 40名
指導者 草場 博文

1 単元名 1章 [多項式] 文字式を使って説明しよう。

2 単元設定の理由

(1)教材について

- ・ 形式的に計算ができるようにするだけでなく、因数分解が公式を用いる簡単な式の展開の逆であることを理解したり、数の計算を関連付けて良さを実感したりしながら学習を進めることができる単元である。
- ・ 乗法公式や因数分解の公式を能率的に活用することで、式を読み取って数の性質を見出したり、目的に応じた式の変形をすることによって根拠として示したりすることができるようになった。これにより文字を用いた式の良さや必要性を一層深めることができる単元である。
- ・ 数の性質を「…は～である」という形で表し、ことからの正しさを証明することで新たな性質を見出すことにつながる。また仮定を変えたときどのような結論になるかを考え、法則を意識することで統合的に考える力を養うのに効果的な単元である。

(2)生徒について (数値は、2年時の単元テストや定期考査の正答率および学習レポートや調査によるもの。)

- ・ 一つの答えを見いだす問題については高い正答率(96%)であり、計算処理を得意とする生徒が多い。解答に導くことが得意であっても解き方の説明や自分の意見を自主的に述べるのが苦手である。(30%)特に小集団なら良いが全体の場で発表するのに抵抗がある生徒が多い。自分の考えに自信が持てなかったり、正しい意見を言わなくてはいけないと身構えたりすることを理由に挙げている。
- ・ 正解を導けることができればよいという意識が先立ち、数学的な用語・表現を正しく使って理由や方法を説明しようという態度が身につけていない。(65%)
- ・ 探求レポートの活動を通して、数学を利用する範囲を積極的に広げ、問題解決の過程を振り返ることを促しつつけたことで、できるようになったとか考え方が変わったなどの変容を実感することができるようになってきている。(92%)

(3)指導について

- ・ できるだけ多くの意見を集約したり、他者の考えに触れる機会を増やしたりするための学習道具としてICT端末を積極的に活用する。また、公式の意味を視覚的に捉え、理解するために効果的に活用する。
- ・ 計算ができることだけをよしとせず、「何を用いたか」を明らかにして手順を説明する場面を多く設定する。数学的な用語・表現を正しく理解し、文字式を根拠として事柄の正しさを簡潔・明瞭・的確に示すよう促す。
- ・ 考えを表現し伝え合うなどの学習活動を大切に、見通しを持たせたり、活動の過程を振り返らせたりすることで、良さを評価し合ったり、疑問点や調べてみたいことを共有する機会を確保する。

3 単元の目標および評価規準

簡単な多項式について、数学的活動を通して次の事項を身につけることができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる。 ②簡単な1次式の乗法の計算及び乗法公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。	①既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し表現することができる。 ②文字を用いた式を活用して数量及び数量の関係を捉え説明することができる。	①式の展開や因数分解をすることの必要性や意味を考えようとしている。 ②式の展開や因数分解について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③式の展開や因数分解を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

様式2 指導と評価の単元計画

1章文字式を使って説明しよう3節 式の計算の利用 【A 数と式 (2) 簡単な多項式】

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			評価方法
			A知・技	I 愚判表	U 主体	
	1節 多項式の計算(6時間)		○		○	
	2節 因数分解(5時間)		○		○	
1	数の性質を見出し、そのことがらがいつも成り立つことを文字式の変形を根拠に証明する。 ⇒既に学習した手順で説明しようとする。 証明した数の性質の条件を変えて、性質を統合的に考える。 ⇒統合された数の性質に関する法則にきづくことができる。	I 予想した数の性質が正しいことを説明するにはどうすればよいか。 II 「連続する2つの整数」の部分を変えたときに結論がどのように変化するか法則を導き出そう。		②	①	ノート 振り返り 行動分析
2	中央の数の2乗と両端にくる2数の積の関係を見出した性質を、文字を使って証明する。 ⇒着目すべき仮定を見出して、性質を統合的に考えることができる。 ⇒簡潔・明瞭・的確を意識した説明をしようとしている。	I 連続する3つの整数では、中央の数の2乗と両端にくる2数の積には、どのような関係があるか。 II 「連続する数を増やすように仮定を変えたとき結論にはどのようなことがいえるだろうか		① ②	③	ノート 振り返り 行動分析
3	展開や因数分解を利用して、数の計算の結果や式の値を工夫して求める。 ⇒式の計算のつくりを理解し、積極的に工夫しようとする。	I 一の位が5の2けたの整数の2乗の計算にみられる法則を探ろう。 II 式の計算を乗法公式の見方・考え方で解決しよう。		①	②	ノート 振り返り 行動分析
4	幅一定の図形の面積は、(幅)×(中央を通る線の長さ)で求められることを、式の計算を利用して証明する。 ⇒目的に応じて式を変形することの必要性を理解している。	I $S=a$ を示すためにどのような式の変形が必要か。 II 式 $r=0$ と考えたとき円の面積やおうぎ形の面積をどのように見ることができでしょうか。		②	②	ノート 振り返り 行動分析
5	レポート作成を通して、学習内容のまとめをする。	II カレンダー特有の数の並びと関連考察しなさい。(教科書 40p) 3年生の学習内容を用いること		全	全	レポート 振り返り
6	1章 まとめの学習 単元テスト		全	全		テスト ノート

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・ICT 端末を積極的に利用することによって、他者の考えをヒントとしながら自分の考えを整理することを促す。
- ・手順を示しながら方法の説明を行なう活動を通して、教え合い活動の機会を増やす。
- ・個に応じた支援として目的にあった問題練習に取り組める教材を準備する。

様式3 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ(1 / 6)
- (2) 題材名 式の計算の利用「数の法則を発見しよう。」
- (3) 本時のねらい

乗法公式 $a^2 - b^2 = (a + b)(a - b)$ に着目して法則を一般化する活動を通して、数の性質に関する一般化された法則が乗法公式の見方を変えて表現したものであるということを、実感することができる。

本時における「問い」の工夫(数学科)

- I 連続する2つの整数の2乗の差はどうか? / いつもいえることを簡潔・明瞭・的確に示すには、どうすればよいか。(学習者が主体的に学ぶための発問や課題を持たせるための工夫)
- II 「連続する2つの整数」の部分を変えると結果はどう変わりますか。結果にはどのような法則が発見できますか。(数学的な見方・考え方を働かせたり、試行、態度の変容を促したりする発問や手立て)

(4) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点(問いの工夫)	評価
5	本時の学習内容を確認する。 ①数の性質を予想する ②事柄を言葉で表す	○問題を提示する。 この式から予想される「数の性質」を「～は、…になる」の形で表させる。 【classroomで意見を集約する。】 $3^2 - 2^2 = \square$ $4^2 - 3^2 = \square$ $5^2 - 4^2 = \square$ $6^2 - 5^2 = \square$	classroomにある他者の意見を参考に、自分の意見を入力しようとする。【ウ-①】
		数の性質:連続する2つの整数の2乗の差は、元の2数の和に等しくなる	
		○予想した「数の性質」が成り立つことを説明するには文字を用いることが有効であることを確認する。	
15	予想した「数の性質」を証明する。 ①見通しを持つ ②証明を完成する(グループ活動) 根拠となる式の変形に3年生の学習内容が使われていることを知る	予想した数の性質が正しいことを説明するにはどうすればよいか。工夫 I ○説明の手順に考えさせ、説明の見通しを持たせる。 【自分で考える ⇒ ペアトーク ⇒ 全体】 ○方法の説明について確認する。 ○証明に必要なものを出し合いグループで証明を完成させる。教え合い活動を促す。 【ホワイトボードを撮影し、クラウドにあげさせる。】 ○各グループの解答を確認し、自分の考えとして整理するよう促す。	文字を用いて数量関係を考察しようとしている【イ-②】
25	「連続する2つの整数」の部分を変えたときの性質を考える。 ①仮定を変えると結果がどのように変わるかを考える ②発見した性質を証明する	○仮定「連続する2つの整数」を変えたことで結果がどのように変わるか意見を出させる。 【classroomで意見を集約する。】 (例) 仮定を「連続する奇数」にする。 ⇒結果は、元の数の和の2倍に等しくなる。 (例) 仮定を「差が3つの2つの数」にする。 ⇒結果は、元の数の和の3倍に等しくなる。 ○出た意見のうち、いくつかの置く文字と結論の式を板書し、元の2数の和に着目させる。	努力を要する状況への手立て(C) 乗法公式の $(a + b)$ や $(a - b)$ に着目するように促す。
		「連続する2つの整数」の部分を変えたときの結論の変化には、どのような法則がみられるだろうか。工夫 II	
	③仮定にともなう結論の変化の法則を考える ④まとめをする	○予想される仮定と結論の証明を事前に準備しヒントとする。(参考にしないのは、選択させる。) ○スタンドアップを確保し、意見の交流をさせる。 ○乗法公式 $a^2 - b^2 = (a + b)(a - b)$ に着目して見方を変えて表現したものと気づかせる。	見出した関係について、乗法公式をもとに説明しようとしている。【ウ-①】
5	学習内容および活動の振り返りをする。	○振り返りに視点を持たせる。 わかったこと・できるようになったことなど自己の変容やってみたこと・気づいたことなど学習内容について ○数名発言をさせ、共有する。 ○「多項式の計算」や「因数分解」といった知識・技能を身につけたことで証明できることが増えたことに気づかせる。	

研究授業報告

4月27日(水)6限	第1回校内授業研	学年教科	3年 数学
授業者	協力者	協力者	司会・運営
草場 博文 教諭	川崎 道広 教授 (大分大学教育学部)	中川 裕之 教授 (大分大学教育学部)	高橋 舞 教諭 (研究部)
学習内容	1章 文字式を使って説明する。(東京書籍) 3節 式の計算の利用の導入「数の法則を見つけ、正しいことを説明する。」		
本時のねらい	乗法公式 $a^2 - b^2 = (a + b)(a - b)$ に着目して法則を一般化する活動を通して、数の性質に関する一般化された法則が乗法公式の見方を変えて表現したものであるということを、実感することができる。		

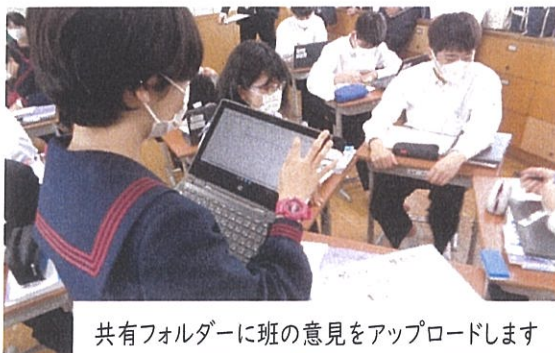
【授業の様子】



ペアトーク



自分の意見を classroom で発表します



共有フォルダーに班の意見をアップロードします



共有フォルダーを見て自分の意見を深めます



自分が証明する結論を決めます



個人の考えを共有フォルダーにあげます

事後研報告

協議の柱	<p>一、主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業者の設定した「問い」は適切であったか。</p> <p>一、本時の ICT の活用場面は、ねらい達成に適切であったか。</p>
------	--

【授業者の振り返り】

<p>・本時は「多項式」の単元の 1 時間目である。主体的な態度を評価する場面、思考・判断・表現で説明の手順をおさえるために問いを設定した。</p> <p>・学習者の基本的な計算問題の正答率が高い。しかし、計算の解き方を説明することは苦手であり、手順を示しながら話すことを意識させながら授業に取り組んでいる。</p> <p>・本時は、数の並びから規則性に気づくことから始める。気づいたことながらいつも成り立つことを、文字式を利用して説明する。さらに示したことから「条件を変える」ことを促し、統合・発展につなげたいと考えた。「2乗の差」は、教科書にもある題材であり、乗法公式を活用した計算につなげることやことからの正しさを説明できる可能性の広がりを実感させるに適していると考えた。</p>

【質問】

質問	回答
今日の評価規準のイ(文字式を活用して説明)は、WB 記入後に何%の生徒が達成できたか?できていない生徒をどう指導するか?	数量関係を文字で捉えることは、ほとんど(8割)はできていた。ただ、 $2n+1$ を $n+(n+1)$ まで気がついた生徒は少なく、目的を持って説明ができたのは6割程度である。数量の関係を捉える文字式の見方については次の時間以降取り組みたい。
乗法公式の利用では、教科書は先に具体的な計算(99^2-98^2)をしているが、文字式から先に学ぶのか?	今回の提案授業のために単元構想を組み替えた。教科書で具体的な計算から入っている意味が実感できた。具体的な計算を積み重ねることで文字式の見方が培われること失念していた。

協議の柱 I 【主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業者の設定した「問い」は適切であったか。】

意見	回答
<p>問いIの生徒の説明は素晴らしいと思った。</p> <p>問IIの提示が遅かった。問IIの前のクラスルームでの共有を短縮しても良かったのではないか。</p>	<p>課題を出すのは遅くなってしまった。学習内容が多く焦点化できていなかった。</p> <p>問IIの「条件を変える」ということが生徒に届いていなかった。悩んでいたのでクラスルームで意見を引き出そうと考えた。</p>
<p>問Iで $2n+1$ をどう処理するのかを考えさせると良いのではないか。1時間の中で今回の問いを工夫I、IIとするのは難しいと考える。「主体的でなければ対話的にならない。わからないことがはっきりしていれば深まる。」そのための問いになっていたか。</p>	<p>$2n+1$ をどう処理するのかを考えさせるには、具体を見せる機会が不足していると感じた。単元計画自体を見直し、生徒が規則性に気づき文字式で説明できることに取り組むたいと考えるような「問い」が必要だと感じた。</p> <p>今回、「形ばかりの統合」にこだわり、肝心の式の見方について失念していた。次の授業は、具体を見せて、本日の学習内容を確認する時間をとりたい。</p>
<p>最後に生徒が「2つの数の差」に気付いていなかった。問IIは適切だったのか。</p>	<p>問IIについて、結果に着目する時間を確保できなかった。時間があれば引き出せたと思う。しかし、問Iの場面で具体的な数字の計算に十分に取り組ませることで問IIにスムーズにつながったであろう。また、具体的な数で計算式をかかせることで文字式での気づきにつなげることができたであろう。</p>
<p>差が4のときの答えの $(n+4)^2-n^2=8n+16$ を $8(n+2)$としていた。本当は $4(2n+4)$とすべきだったのではないか。</p>	<p>この単元では、文字式を説明すべき結果にあわせて文字式を変形できるようにする。生徒たちには、計算をする意味を考えさせることができていない。これからの活用の部分で目的に応じて、文字で置くことや式の変形を確認したい。</p>

協議の柱2【本時の ICT の活用場面は、ねらい達成に適切であったか。】

意見	回答
各班のホワイトボードをアップロードして手元の端末で見ることができることにより、自分の考えとの比較が容易になり、ノートに他者からの学びを記録するまでの時間が従来よりも短縮されていると感じる。ただ、クラスルームでの意見集約については、そのあとの展開を考えた時にしなくても良かったように思う。	今回の授業では、いくつかの場面で ICT 端末の活用を積極的に実践してみた。今後授業のねらい達成に向けて効果的に活用できていたかを分析することが求められる。 classroom での意見集約は、様々な考え方や意見を集めたいときに適している。しかし、同じような意見が出る場合は、視覚的な情報のインパクトが強すぎるため一つの意見に引っ張られる傾向がある。多数決に陥ることを考えると適しているとは言えない。
生徒の考えによる学びのヒントを手軽にみることができ、理解につながっている。いろいろな考え方が見て取れると同時に、自分の考えも深まっている。	考え方の見通しを持つための支援として ICT 端末は効果的に活用できると思う。今回、問題解決のとりかかりの部分を撮影してクラウドに挙げるなどをさせた。苦手な生徒にとっては、見通しを持つのに良いヒントを得ることができた。
写真を撮影してアップすることにより、教室の座席配置を超えた「他対他」の学びが可能になっている。他の生徒の意見を参考にできる環境が良い。英語科でも積極的に取り入れたい。	ホワイトボード等を活用したグループ活動の後は、考えや意見を共有するために発表などを行うことが多い。各自が端末で確認することができることや複数の班の意見を比べることができることなど活動を積極的に振り返ろうとする生徒が増えている。

【協力者より】

<p>○数の世界と文字式の世界を行き来する経験をさせる工夫をすべきである。</p> <p>数の計算を参考にしながらどのように文字式の計算を行えばよいかを考えさせるのが大事で、乗法公式を使わせたいならば数の計算を繰り返して何回目か気づくかを大切にしたい。また、予想した結論が正しいことを確かめるには、他の数でも成り立つかを確認するのが先で、そこで発見できる「……なりそうだ」を「……なる」にするために文字式を使う方が良い。</p> <p>○他者との対話(学びあい)のタイミングを工夫すべきである</p> <p>自分の考えをまとめるときに人の良いところを見てしまうと頭から離れなくなり深まらない。対話が多すぎるようだ。落ち着いてじっくり考える時間を確保したい。グループ活動の意義を再確認し、作法を定着させる指導が必要である。</p> <p>○ねらいを達成するために発問の工夫をすべきである。</p> <p>乗法公式に着目させたいならば、「連続する2つの整数」を変えたとき…の問いでは、何を考えるべきかばやけてしまうのではないか。</p>
--

【寄せられた感想】※ふりかえりをもとに

<ul style="list-style-type: none"> ・問いの工夫Iについての生徒の説明はとても素晴らしかったです。 ・クラウドを活用しながら、待っている間に自己解釈をしている。他者の意見を参考に考えを深めようとしている。 ・質問を使って子どもの意見をひき出すことが良かった。 ・写真をクラウドに上げることでCの子たちが救われる。ホワイトボードと違い、手元で見れる。 ・カードに書かれた数式とその答えについてテンポよく触れる中で生徒たちが、本時で考える内容にスッと入った感じがした。自ら立てた仮説を検証する際に既習の内容に立ち返る場面があり、素晴らしい問いだった。 ・今後の研究を深めるために「問い」について共通認識する必要がある。 <p>「問い」については、平成31年度に研究した内容であり、あいまいになってしまっている。</p> <p>教科の特性を十分に配慮しながら、「問い」というキーワードを生徒と共有するために共通理解を図らねばならない。本校の研究が、教師の提示する「問い」に対する質の研究なのか、生徒が授業で持つ「問い」という視点での研究なのかを考えてなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業で「問い」を持つためには、「振り返りの中に自らが新たな問いを見出す」取組を継続させる必要がある。7月の公開研に向けて提案する授業者が同じ認識でできるよう、またその他の先生方も毎日の授業を意識して実践していけるよう、「問い」について今一度共通認識をしたい。
--

社会科学学習指導案

令和4年9月7日(水)第6校時
2年C組 40名
指導者 小野 智博

1 単元名 日本の諸地域「北海道地方」「東北地方」(内容のまつまりC日本の様々な地域(3)日本の諸地域)

2 単元設定の理由

(1)教材について

- ・「日本の諸地域」は、「自然環境」「人口や都市・村落」「産業」「交通や通信」を中核とした4つの考察の仕方を基にして、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、資質・能力を育成する単元である。北海道地方は寒冷な気候や火山活動、東北地方は夏に冷害(太平洋側)、冬に大雪(日本海側)が見られるなど自然環境が厳しい地域であり、自然環境が人々の生活・文化や産業などと深い関係をもっており、自然環境を中核とした考察に取り組むことに適した単元である。
- ・北海道地方と東北地方では、空間的相互依存関係や地域などに着目して、地域的特色や地域の課題を理解したり、それらを有機的に関連付けたりすることを通して、知識を概念的につなげることを単元のねらいとする。
- ・北海道地方は気候を観光資源として観光業を発展させたり、東北地方は地域の自然や文化が反映された伝統行事によって地域を活性化させていたりしていることから、課題を設定し、探究する活動を通して、社会的事象を自然環境との関連から捉え、多面的・多角的に考察し、表現する力を養うことに効果的な単元である。

(2)学習者について

- ・教科アンケート(7月)では、「社会科の授業が好き」86.3%「社会科の授業がわかる」89.7%であり、社会科の授業についての関心は概ね高く、意欲的に取り組むことができているが、「地理の学習が好き」61.7%という結果から、地理的分野については苦手意識があることがうかがえる。
- ・学習者は前単元の「日本の地域的特色と地域区分」の学習で、分布や地域などに関わる視点に着目して、日本の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色と地域区分の方法や意義を学び、概念的な知識や技能を学習している。
- ・教科アンケート(7月)では、「地図や資料を読み取ったことを適切にまとめることができる」70.6%、「自分の考えや思いをはっきりと発表できる」49.4%であり、資料を活用したり、表現したりする能力に課題がある。

(3)指導について

- ・単元を貫く課題(パフォーマンス課題)を設定することで、学習者が主体的に地理学習に取り組めるようにするとともに、北海道地方と東北地方とを比較・分析し、地域的特色や課題を理解するように指導する。
- ・自然環境を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けてレポートを作成する活動を通して、自然環境に焦点化した視点を設け、情報を収集、読み取る、まとめる技能を身に付けるように支援する。
- ・自らの学びをグループで共有する際に、知識構成型ジグソー法やプレゼンテーションの手法を用いて協働的な学習を行い、学びを深めさせる。また、自らの意見に自信を持って発表できるように、聴く側は共感的に傾聴するように促す。

3 単元指導計画(内容のまつまりC日本の様々な地域(3)日本の諸地域)

1(7時間) 北海道地方 東北地方	2(4時間) 関東地方	3(4時間) 中部地方	4(4時間) 近畿地方	5(4時間) 中国・四国地方	6(6時間) 九州地方
自然環境 【○知識・○技能】 【○思考・判断・表現】 【○主体的に学習に取り組む態度】	交通・通信 【○知識・●技能】 【●思考・判断・表現】	産業 【○知識・○技能】 【○思考・判断・表現】 【●主体的に学習に取り組む態度】	人口や都市・村落 【○知識】 【●思考・判断・表現】	人口や都市・村落 【○知識・●技能】 【●思考・判断・表現】	交通・通信 【○知識・○技能】 【○思考・判断・表現】 【○主体的に学習に取り組む態度】
➡					

4 単元の目標

〈知識及び技能〉

- ・ 北海道地方と東北地方について、比較的冷涼な気候と豊かだが厳しい自然環境が諸産業と結び付いていることや、環境保全への取組、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組と、そこで生じる冷涼な気候における地域の在り方や防災対策などの課題について理解できるようにする。
- ・ 北海道地方と東北地方について、調査活動や諸資料から課題解決に必要な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・ 北海道地方と東北地方の自然環境とそこで暮らす人々の生活の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、特色ある自然環境や諸産業の様子、持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。

〈学びに向かう力、人間性〉

- ・ 北海道地方と東北地方について、見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究しようとする態度を養う。
- ・ 北海道地方と東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。
- ・ 他者の考えを思いやりをもって共感的に聴く姿勢を養う。

5 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①北海道地方と東北地方について、比較的冷涼な気候と豊かだが厳しい自然環境を生かしたり克服したりする産業がおこなわれていることや、環境保全への取組、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組と、そこで生じる冷涼な気候における地域の在り方や防災対策などの課題を理解している。</p> <p>②北海道地方と東北地方について、調査活動や諸資料から課題解決に必要な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>①北海道地方と東北地方において、魅力的なエコツーリズムの企画（レポート、プレゼンテーション）を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、特色ある自然環境や諸産業の様子、持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>①北海道地方と東北地方について、見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</p> <p>②他者の考えを取り入れながら、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

6 指導と評価の単元計画

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いを生み出す工夫】	評価の視点			評価規準
			ア	イ	ウ	評価方法
単元を貫く課題：北海道地方と東北地方における魅力的なエコツーリズムとはどのようなものだろうか。						
1	資料を参考にして北海道地方と東北地方の現状と魅力について意見を出し合う活動を通して、単元を貫く課題を設定し、自然環境を考察する意義を見出し、学習の見通しを持つ。	・北海道地方と東北地方の魅力について考えさせる。 ・単元を貫く課題（パフォーマンス課題）を設定する。			①	【ウ①主体的に学習に取り組む態度】北海道地方と東北地方の現状と魅力について自分の考えを書いている。また、単元の見通しを持つことができている。 OPP, 行動観察
2	北海道地方と東北地方に暮らす人々の生活・文化と産業について、自然環境への対応に着目して、情報を収集し、ICT 端末でレポートを作成する。	・班で調査対象を分担させる。 ・北海道地方と東北地方に暮らす人々の生活・文化と産業について、自然環境への対応に着目してレポートを作成させる。	②	①		【ア②技能】自然環境を中核に、生活・文化と産業などについて調べ、考察に必要な情報を整理している。 【イ①思考・判断・表現】エコツーリズム企画について、自分の考えを根拠と理由を明確にして文章で表現している。 レポート(Google ドキュメント)

3	レポートをもとにエキスパート学習を行う。内容の交流と班やクラスへの説明についての手法を話し合い、プレゼン資料(スライド)を作成する。	・レポートをエキスパート班内で交流させる。 ・エキスパート班でスライドを作成させる。		① ②	【イ①思考・判断・表現】根拠と理由を明確にして、エコツーリズム企画について多面的・多角的に考察し表現している。 【ウ②主体的に学習する態度】他者の考えを取り入れながら、エコツーリズム企画を主体的に追究しようとしている OPP, Google スライド, 行動観察
4 本時	班でジグソー学習を行い、北海道地方と東北地方のそれぞれのプレゼン資料について、質問や改善点の意見交換を行う。	・エキスパート班で作成した資料をジグソー活動で班員に説明する。 ・ジグソー活動における班員の説明に対して、質問や改善点を付箋に記入した後、意見交換を行う。	①	①	【ア①知識】北海道地方と東北地方について、ジグソー学習による付箋記入によって、自然や諸産業などの地域的特色や課題を理解している。 【ウ①主体的に学習する態度】自分の考えが変容したことや次の時間の学習構想などを書き込み、課題を追究しようとしている。 Google スライド, OPP, 行動観察
5	ジグソー学習における質問や改善点をもとにエキスパート学習を再度行うことで、自分たちの資料を修正する。	・質問や改善点をエキスパート班で調査・吟味させる。 ・内容を精査し、スライドを再作成させる。		①	【イ①思考・判断・表現】根拠と理由を明確にして、エコツーリズム企画について多面的・多角的に考察し表現している。 Google スライド, 行動観察
6	エキスパート班で再作成した自分たちの考えを学級全体にプレゼンテーションする。(クロストーク)	・魅力的なエコツーリズム企画をクラスでプレゼンさせる。 ・プレゼンを評価させる。	②		【ア②技能】根拠となるデータ等を図やグラフ・写真等を用いて効果的に表している。 Google スライド, 行動観察, 評価用紙
7	単元の学習を振り返り、北海道地方と東北地方の特色について、多面的・多角的に考察し、比較・分析することで共通点を見出し、文章で表現する。	・北海道地方と東北地方の特色をベン図にまとめさせる。 ・自分の考えを、他者と交流させた後、文章で地域の特色を表現させる。	①	① ②	【ア①】北海道地方と東北地方の自然環境や諸産業、環境保全の取組(エコツーリズムなど)等、地域的特色を理解している。 【イ①】北海道地方と東北地方において、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、特色ある自然環境や諸産業の様子、持続可能な地域づくりに向けた取組(エコツーリズムなど)と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 【ウ②主体的に学習する態度】他者の考えを取り入れながら、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 OPP, 小テスト

●学習状況を見取り、学習者の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う「学習改善につなげる評価」

○観点別学習状況の評価や評定に用いる「記録に残す評価」

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・単元の学習を見通し、OPP(1枚ポートフォリオ)を利用することで、学習に系統性を持たせる。
- ・情報の収集やレポートの作成をする際には、資料やホームページ等を例示したり、ペアで話合わせたりすることで、課題解決に取り組みさせる。
- ・エキスパート班で活動することで、調べ学習の内容の定着を図る。
- ・グループで意見交換をする際には、班員の話最後まで聴いたり、うなずきながら聴いたりするなど、共感的に傾聴するように促すことで、発言者が自信を持って発表できるようにする。
- ・プレゼン資料を紙媒体で配付する(クラウドにもアップする)ことで、発表者の発言内容の理解を深める。
- ・北海道地方と東北地方の特色の共通点を見出す際には、プレゼン資料の紙媒体を参考にし、ベン図(思考ツール)にまとめさせる。

7 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(4 / 7)

(2) 題材名 北海道地方と東北地方の地域的特色とエコツーリズムの企画提案(ジグソー学習)

(3) 本時のねらい

北海道地方と東北地方の地域的特色や地域の課題について、エキスパート班で作成したエコツーリズム企画を、伝え合い、意見を交換し合う学習を通して、他者の考えを取り入れながら、主体的に追究するようにする。

本時における「問い」を生み出す工夫(社会科)

- ・エキスパート班で作成した資料をジグソー学習で班員にプレゼンテーションする。
- ・ジグソー学習において、班員のプレゼンテーションについて、質問や改善点を付箋に記入する。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点(問いの工夫)	評価
5	1 本時のめあてを確認する。	○前時までの活動を振り返り、本時のめあてを提示する。 めあて:班員の説明に対して、質問や改善点を見出し、意見交換をしよう。 ・エキスパート班で作成したスライド資料をジグソー学習で説明することを確認する。 C 班員の話最後まで聴いたり、うなずきながら聴いたりするなど、共感的に傾聴するように促す。	
24	2 <ジグソー学習> エキスパート班で作成したスライドを交互に発表した後、質問や改善点を付箋に記入し、意見交換をする。 (12分×2回) 説明(4分) 付箋記入(3分) 意見交換(5分)	○スライド資料を班員で共有したり、自分のクロームブックに表示したスライド資料を見せたりしながら説明するように促す。 ・付箋について説明し、視点(生活・文化、産業、防災、エコツーリズム、考察)に基づいた質問や改善点を記入できるようにする。 ・質問者は付箋に書いた内容を読み上げ、提案者に渡し、提案者は付箋を受け取ることを説明する。 予想される学習者の質問 ・北海道では外国産の農作物にどのように対抗しているのか。 ・東北ではなぜほぼ同じ時期に祭りをしているのか。	・北海道地方と東北地方について、ジグソー学習による付箋記入を通して、自然や諸産業などの地域的特色や課題を理解している。
11	3 受け取った付箋をノートに分類し、調べる。	○ジグソー学習で班員から出た意見(付箋)をノートに貼り付け、自分の考えを深めるために調べ、ノートにまとめるように促す。 予想される学習者のノート ・北海道産の農作物の証明を与え、ブランド化を図る。 ・夏休みの時期に行うことで、観光資源にしている。	
10	4 振り返りを行い、次時の学習の構想をする。	○Google スプレッドシートに、北海道地方と東北地方の地域的特色を入力させ、AI マイニングで表示することで、全体で共有する。 ・OPP(1枚ポートフォリオ)に振り返りを記入させ、次の時間の学習の構想を練らせる。	・自分の考えが変容したことや次の時間の学習構想などを書き込み、課題を追究しようとしている。
		振り返り:友達の仕事について、質問や改善点を伝えることは難しいと思ったけど、話をし易い雰囲気があり、自分の考えをはっきりと伝えることができた。	

研究授業報告

9月7日(水)6限	校内授業研	学年教科	2年C組 社会
授業者	協力者	指導助言者	司会・記録
小野 智博 教諭	土居 晴洋 教授 (大分大学教育学部)	佐藤 尚 指導主事 (大分県教育センター)	阿南 幸一 教諭 白石 遼太郎 教諭
学習内容	C 日本の様々な地域(3)日本の諸地域 北海道地方と東北地方の地域的特色とエコツーリズムの企画提案		
本時のねらい	北海道地方と東北地方の地域的特色や地域の課題について、エキスパート班で作成したエコツーリズム企画を、伝え合い、意見を交換し合う学習を通して、他者の考えを取り入れながら、主体的に追究するようになる。		
「問い」を生み出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート班で作成した資料をジグソー学習で班員にプレゼンテーションをする。 ・班員のプレゼンテーションについて、質問や改善点を付箋に記入する。 		
協議の柱	<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 ※付箋かかれた意見の交流は、学び続けるエネルギーになったか。 		

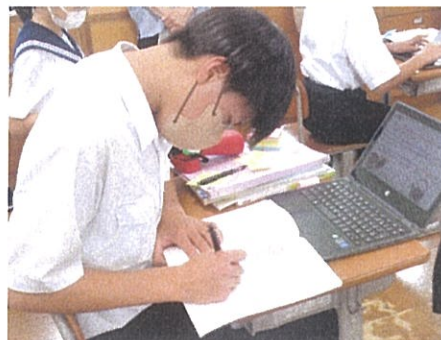
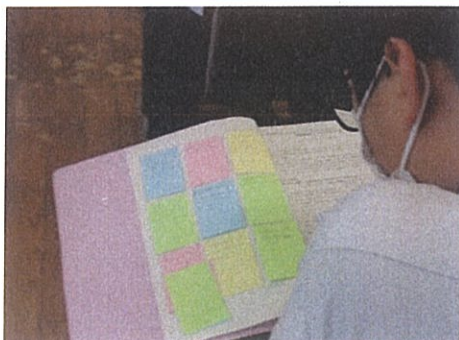
【授業の様子】



エキスパート班で作成したスライドを資料としながら班員にプレゼンテーションを行います。
(ジグソー学習)



生活・文化、産業、防災、エコツーリズム、考察に基づいた質問や改善点を付箋に記入し発表者に渡します。発表者は、付箋にある意見を参考に深めるための改善点を探ります。



事後研報告

協議の柱	「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。
------	------------------------------

【授業者の振り返り】

<p>学習者は、歴史の方がテストで得点しやすいと考えていることから地理に苦手意識を持っているようである。多くの生徒は、資料を読み取り、活用することを苦手としている。そこで、「北海道・東北地方のエコツーリズムの企画」をパフォーマンス課題として設定し、学習者が主体的に取り組めるよう工夫した。</p> <p>地域的特色や課題を「調べる」、「考える」、「表現する」という機会を通して、北海道地方と東北地方とを比較・分析しながら知識を概念的につなげたり、学び方を習得させたりしたい。</p> <p>本時では、問いを生み出す工夫として「ジグソー法」と「付箋に書き込ませる場面」を設定した。</p> <p>ジグソー法で、どのくらいの知識が定着できているかは若干心配である。また、付箋を書かせたのは、学びにつなげる「いい質問」ができる生徒を育てたいと考えるからである。これから共感的理解を土台とした批判的思考力を働かせることのできる学年を目指したい。</p>
--

【質問】

質問	回答
質問する力について (良い質問はどれ?どのくらいあったか?)	祭りや伝統的工芸品が同じようにあるなど内容について質問ができていればよい。どの班もいい質問があったと発言したことから、九割くらいできていた。
エキスパート学習はどうやったのか	本日の午前中にやった。2つの班を一つにして行なった。レポートの交流からはじめ、スライド作成を行なった。
評価規準(知識・技能)は、何人くらい達成できていたのか。	見取りはあまりできていない。形成での評価を行う。次のエキスパート学習で資料を再構成できているか確認。クロストークで最終確認をする。
予想していた質問とずれた質問を行っていた生徒が数名いた。他クラスでの実践では、どう対応するか。	前時に抑えを行っている(不十分だった)。質問の内容について再度抑えを行うつもりである。
何を使ってエキスパート学習の資料を作ったのか。	前時にレポートの作成を行っている。ハンドブックや書籍の情報を基本としながら、インターネットを活用して、エキスパート学習の資料の準備を行った。
スライドの視点を分けた意図は何か	地域的特色を捉えるために、生徒にある程度視点を与えないと深まらないと感じ、視点を提供した。(教科書にある内容)

【グループ協議で出た意見や感想】

<p>○付箋にかくために、発表をしっかりと聞くことにつながっていた。主体的に活動していた。発表者は良く調べて発表している。どのくらい質問・意見があったかを付箋の枚数で見れるのは良い。班によって枚数の差がみられたことが気になる。付箋とJamboardのどちらが良いかなど今後検討してはどうか。</p> <p>○(ジグソー法の活用についての不安)特徴にこだわりすぎて社会の知識として大丈夫なのか。</p> <p>○エキスパート学習は、個人に意識を持たせるうえで効果的と感じた。班によって理解度に差が生じているのではないか。深い理解につながっているか。</p> <p>○質問の質を上げるためには、エキスパート学習で単元の核に迫ったり、付箋を書く時の視点を与えたり、パフォーマンス課題に戻ったりする場面の工夫がもっと必要になるだろう。また、深まるような質問を例示するのも良い。また、質問を考えるのに十分な時間を確保出来たらよいかもかもしれない。</p> <p>○生徒が学びの中心にある授業スタイルとなっていた。生徒の聞き方が指導されている。</p> <p>○AIマイングなど生徒の興味・関心をひく手立てがよい。</p> <p>○生徒自身が改善する意義をどこまで感じ取れたのか。</p>
--

【協力者より】

今回の内容は地誌学となる。静態地誌と動態地誌の2つに分かれる。静態地誌だと、暗記教科的になるので今では、動態地誌を重視する傾向がある。静態地誌でも動態地誌でもない第3の方法のような授業であった。

子どもたちの疑問や意欲を生み出すような授業であった。AI マイニングに関してはいい面と悪い面がある。今回の活用はよかった。改善点としては、いかにも行っているような臨場感を感じさせる必要がある。空間的スケールの違いを生徒に認識させる。厳しい自然環境ではあるが、道民などはそのように感じていないと思う。生徒に疑問を出させるのは良かったが、プレゼンは羅列的になってしまっていた。生徒に何をどう考えたらよいのかの道筋を与える必要がある。AI マイニングで出来たイメージがそのままその地域のイメージであるとは言い難い点を抑える必要がある。イメージはこうだが、実際はこうだというようなまとめがよい。住んでいる人に着目させる必要がある。

【指導助言者より】

地理では、データの数値を読み取り、自分の考えを形成することや知識を概念的につなげることを大事にしている。日本の諸地域は、普通に行くと時間が足りない。今回のように2つの地方をまとめて学習するのは、指導要領上問題はない。パフォーマンス課題に挑戦するとき、ルーブリックが大事になってくる。スライド作成は合意解であり、最終的には納得解になる。ジグソー法の活用には、生徒自らが資料を手に入れるものと与えられた資料について考えるものの2つがある。今回の場合、対話が生まれやすい前者を活用するのは良かった。ポートフォリオで「内容知の振り返り」と「方法知の振り返り」を行い自立した学習者の育成を目指す必要がある。

批判的思考力を高めるには、教師がモデリングとなる必要がある。5W1H や持続可能性、効率性などを生徒に示し続けてほしい。道具としての ICT の活用や学習環境については、常にチェックが必要がある。

【寄せられた感想】※ふりかえりをもとに

- パフォーマンス課題についての授業で面白かった。主体性を育てる上で有効であると感じるし、特に本校では生徒の資質能力を育成する上で有効だと感じる。
- 他教科の授業を見ることで、新しいことを知ることができるので良かった。社会のような用語のキーワードを重視する教科では、振り返りに使った AI マイニングはひと目見てわかるので良いと思った。また、総合的な学習に通じることもグループ協議の中で出たので、それも興味深かった。
- AI マイニングの導入など先進的な取り組みは、様々な場面で使えると感じた。使う目的と場面には、配慮が必要である。今回の場合、AI マイニングの活用は、全員の意見を収集につながって良かった。
- クロムブックの活用やジグソー法など色々な手法を使っただけの授業でとても勉強になった。
- 次の学び(授業)につながる質問が出ていたのがよい。生徒の主体的に学ぶ姿が印象的だった。生徒が課題を引き受け、相手意識を持ってプレゼンしており、聞く生徒も真剣に聞いていました。付箋の活用という仕掛けが良かった。
- 単元を通したワークシート(ポートフォリオ)は、生徒の振り返りにも有効で参考にしたい。
- プレゼンテーションやその準備を協働で同時編集できるようになったことは大きい。生徒の主体性を持たせる取組となっている。
- 社会科は、教師が知識を生徒に授ける形態が主だと思っていたが、あのように生徒自身が役割を果たすために知識を得ていくという学習形態のあり方がとても新鮮だった。
- パフォーマンス課題を設定した授業は、提案性のある授業だった。考察したことをもとに発表するという流れの中で学習を深めることができそうである。今後、引き続き検証し授業改善につなげたい。
- 「質問の質を高める」ために教員側が意識するべきことを考えるきっかけとなった。

第2学年 国語科学習指導案

令和4年10月12日(水)第6校時

2年B組 40名

指導者 高橋 舞

1 単元名 いにしへの心を訪ねる 「『平家物語』 「扇の的」「敦盛の最期」」

2 単元設定の理由

(1)教材について

- ・古典文学には現代に通じる価値観や、現代とは違った、あるいは現代人が忘れてしまったものの見方や考え方が描かれているものが多い。今回扱う「平家物語」は、琵琶法師によって語られた平曲であり、七五調を交えた和漢混交文である。独特のリズムと調子を持った「平家物語」は、平安時代に書かれた作品より読みやすく親しみやすい教材となっている。
- ・「扇の的」は、那須与一がはるかかなたの扇の的を見事に射落とす場面である。与一が味方の名誉のために命をかけて挑んだ悲壮な心情と弓術の見事さが描かれている。また、与一の腕に感動して舞を舞った老武者を与一が射倒すことで、容赦なく命を奪う義経の非情さも描かれている。「敦盛の最期」では、熊谷次郎直実が武士として武勲をあげるために戦いを挑む姿や、敦盛が名を汚すまいと潔く死を選ぶ姿、人の親として若者の死を悲しむ姿など、戦国に生まれた武士の運命の過酷さに苦しむ姿が描かれている。この2つの教材の登場人物である「那須与一」「熊谷次郎直実」「平敦盛」の三人の人物を通して、当時の武士の生き方について考えさせることができる。

(2)学習者について

- ・9月に行った教科アンケートでは、国語の授業が「好きだ」「どちらかといえば好きだ」と答えた学習者は、75%、国語の授業が「理解できている」「どちらかといえば理解できている」と答えた学習者は94%となっており、国語の学習に比較的高い意識で取り組んでいることが分かる。また、分野ごとに見ていくと、「物語文」や「漢字」「語句」「文法」に対する関心が高いことも分かった。一方で、「古典」の学習に関しては、「あまり好きでない」「好きではない」と答えた学習者は62%と高い結果となった。その理由として、「書いていることが分からない」「昔の言葉は難しいから」「何を言っているのか理解できない」「昔の人の考えに共感しにくいから」という内容があげられており、苦手意識が高いことが分かる。
- ・前期(6月)の古典の学習では随筆「枕草子」に取り組んだ。比較的優しい内容であり、単元のゴールとして、「現代版枕草子」を書く活動を取り組み、平安時代と現代の四季の捉え方について考えた。その中では、「昔の人も現代の私たちと同じように四季を感じていたということが分かった」「春夏秋冬の季節の美しさは当時も現代も変わらないものがあるということが分かった」などの感想を持っている学習者も多かった。今回の学習では、「枕草子」の学習より、より深く古典文学に親しませるため、当時の人々の心情に迫らせたい。

(3)指導について

- ・「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の三人の武士の「心の表裏」について考え、グループで共有する活動を通して、三人の武士の共通点を考えさせることで当時の人々の生き方や心情について考えさせる。また、当時の人々の生き方や心情の中に現代の自分に通ずるものがあるのかどうかについて考えさせることで、古典の世界をより身近に感じることができるよう促す。
- ・単元のゴールとして、「『平家物語』の人物の心情に迫れ!~人物列伝を作成しよう~」という活動を設定した。本文を読み解き、それぞれの人物を調べ、本文を登場人物に着目して読み取った上で、人物列伝を作成することでより深く人物を知り、「平家物語」を理解することができると共に、人の生き方について学ぶことに寄り添うことを支援する。

3 単元の目標

〈知識及び技能〉 (3) 我が国の言語文化に関する事項のイ

- ・現代語訳や語注などを手掛かりに『平家物語』の原文を読むことを通して、当時の人々(武士)のものの見方や考え方をすることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉 「C 読むこと」(1)オ

- ・『平家物語』の原文や現代語訳を読み、三人の人物について考えたことを、これまで学習した古典の知識や自分の経験と結び付け、自分自身と重ね、考えを広げたり深めたりすることができる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・『平家物語』の原文を読むことを通して内容を理解した上で、当時の人々(武士)の心情を考え、他者と交流する中で自分の考えを伝え合おうとする。
- ・当時の人々の心情と現代の自分自身を重ね合わせることで、古典の世界を身近に感じることができ態度を養う。

4 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①「平家物語」の作品を理解した上で、独特な調子やリズムを感じ取りながら音読しようとしている。</p> <p>②「扇の的」と「敦盛の最期」の現代語訳や語注、解説文を手掛かりとして原文の内容を理解している。</p> <p>③原文を理解することを通して、そこに描かれている情景や登場人物の心情を想像しようとしている。</p>	<p>①「読むこと」において、原文や現代語訳を読み理解したことを、自分の持っている知識と結び付けることでより深く明確なものにしようとしている。</p> <p>②「読むこと」において、「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の三人の人物について考えることで、共感したり、疑問を持ったりする中で自分と重ね合わせることで、自分の考えを広げたり深めようとしている。</p>	<p>①原文や現代語訳を手掛かりとして理解した内容をもとに「武士の精神(武士のあり方)」について考え知識を深めようとしている。</p> <p>②他者の考えを取り入れながら、当時の武士の心情を理解し、自分自身と重ね合わせようとしている。</p> <p>③「人物列伝」を自分自身が読み取ったことや班活動で得たことをもとにして作成しようとしている。</p> <p>④作成した「人物列伝」を班で交流し、感想を伝え合おうとしている。</p>

5 指導と評価の単元計画

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			・評価規準・【評価方法】
			ア・技	イ・判	ウ・態	
単元のゴール:『平家物語』の人物の心情に迫れ!~人物列伝を作成しよう~(言語活動)						
1	「平家物語」の歴史について理解し原文を音読することを通して、「平家物語」の概要を知り、この作品を通して語られている「無常観」について考えることができるようにする。	・「平家物語」の文学史について理解させる。 ・「扇の的」と「敦盛の最期」の原文の音読を行い、独特な調子やリズムを感じ取らせる。 ・単元のゴールを設定し、次回以降の見通しを持たせる。	①			【ア知識・技能】① 「平家物語」の独特なリズムを理解した上で音読をすることができている。また、次回以降の見通しを持つことができている。【行動観察】
2 ・ 3	・「扇の的」と「敦盛の最期」の原文と現代語訳や語注、解説を照らし合わせて読み、クイズを通して内容を理解する。 ・クイズを通して理解した内容を踏まえて、「当時の武士の精神(武士のあり方)」について考える。	・「扇の的」と「敦盛の最期」について内容理解につながるようなクイズを個人・班で答えさせる。答えは原文で書くことで古文に触れさせる。 ・理解した内容を踏まえて、「武士の精神(武士のあり方)」について考えさせる。	②	①		【ア知識・技能】② 現代文と古文を照らし合わせながらクイズに答えることで、内容を理解することができている。【行動観察・ワークシート】 【ウ主体的に学習に取り組む態度】① クイズを通して理解した内容を手掛かりとして「武士の精神(武士のあり方)」について他者の考えを参考にしながら考えを深めることができている。【行動観察・ワークシート】
4	「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の三人の人物に着目し、それぞれの人物の心の「表」と「裏」について考える。	・班で三人の人物について分担し、それぞれの人物の心の「表」と「裏」についてまとめさせる。 ・同じ人物について考えている人と交流を行い、担当した人物についての理解を深めさせる。	③			【ア知識・技能】③ 原文(現代語訳)を読み深め、それぞれの人物の心情を理解し、心の「美」と「醜」について考えることができている。【行動観察・ワークシート】
5 (本時)	・三人の人物について班で交流を行い、三人に共通する心の「表」と「裏」について班で考える。 ・現代の自分たちと重ね合わせて共通するところがあるかどうか考える。	・三人の人物の心の「表」と「裏」について交流を班で行った後で、その三人に共通する心の「表」と「裏」について考えさせる。 ・当時の武士の心情で私たちが共感できることはあるか、自分自身を振り返って考える。		① ②	②	【イ思考・判断・表現】①② 登場人物三人についての理解を深めた上で、自分自身を振り返り、当時の武士の心情と比較することができている。 【ワークシート】 【ウ主体的に学習に取り組む態度】② 班活動を通して、三人の人物を理解する上で他者の意見を取り入れることができている。【行動観察】
6	前時までの学習を振り返りながら、「人物列伝」を作成する。	・前時までの授業のプリントなどを参考にして一人一枚の「人物列伝」を作成させる。			③	【ウ主体的に学習に取り組む態度】③ 授業の内容を振り返りながら、「人物列伝」を自分の言葉で文章をまとめながら作成することができている。【行動観察・作品】
7	・完成した「人物列伝」を班で交流し、お互いの感想を述べ合う。 ・学習のまとめを記述する。	・自分が作成した「人物列伝」を班で交流させ、感想を述べさせる。 ・単元のまとめとして、学習のまとめを書かせ、提出させる。			④	【ウ主体的に学習に取り組む態度】④ 作成した「人物列伝」を班で交流し、感想を伝えることができている。【行動観察】

●学習状況を見取り、学習者の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う「学習改善につながる評価」

○観点別学習状況の評価や評定に用いる「記録に残す評価」

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・単元のゴールに位置づけた「人物列伝」の作成については、モデルを示し、イメージしやすいよう支援する。
- ・古語の読み方を確認しながら読むことができるよう、ペアで音読をさせる。
- ・原文を理解する際には、現代語訳や語注、語釈を示したり、ペアで内容理解を確認しあう時間を設けたりする。
- ・4人の人物について学習を深める際には、他者の意見を自分の考えの中に取りこめるようグループで考えを交流する場面を設定する。他者の意見を自分の考えと合わせて再構築させることができ、深い理解につながるよう支援する。
- ・学習したことを視覚化する「人物列伝」を作成することで発表内容の理解を深めることができる。

6 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ (5 / 7)
- (2) 題材名 『平家物語』 「扇の的」「敦盛の最期」
- (3) 本時のねらい

古典の現代に通ずる部分を、「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の人物の心の「表」と「裏」を読むことを通して、当時の人々(武士)の心情に寄り添いながら、迫ることができる。

本時における「問い」を生み出す工夫(国語科)

- ・「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の心の共通点を追求する。
- ・当時の人々(武士)の心情で現代の私たちが共感できることはあるか自分自身を振り返って考えを記述する。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1 前時の振り返りとめあての確認をする。	○前時までの活動の振り返りを行い、本時のめあてを提示し、意識づけを行う。	
めあて:三人の武士の心の「表」と「裏」についてまとめ、現代の私たちでも武士の心に共感できるか考えよう!			
5	2 三人の人物についてそれぞれが調べたことを班で共有する。	○「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」がどのような人物なのか、また心の「表」と「裏」について班で発表し共有する。	・他者の発表を聞き、三人の人物についての理解を深めている。[行動観察]
25	3 三人の人物の心の「表」と「裏」で共通することを班で話し合いまとめる。→発表 《課題の解決》	○三人の人物について交流したことをもとにして、共通する心の「表」と「裏」について班で話し合う。 ○話し合った内容をホワイトボードにまとめ、全体で交流する。 予想されるホワイトボードの内容 「表」・・・一門や自分のために、強い責任感とプライドを持ち、生きぬこうとする強い気持ち。 「裏」・・・どのような状況であっても同じ人間を殺さなければいけない、命を経たなければならないことに葛藤する気持ち。	
7	4 班の発表を受け、自分の言葉で三人の人物の心の「表」と「裏」についてまとめる。《まとめ》	○他の班の考えも踏まえながら、課題の答えを自分の言葉でまとめる。 (C層の学習者への手立て) ・CBや黒板のホワイトボードを参考にさせながら、自分の言葉で文章を記述するように促す。	・三人の人物の心の「表」と「裏」について他者の意見を踏まえた上で自分のことはまとめを記述している。[行動観察・ワークシート]
7	5 ふりかえりを行う。	○《まとめ》を踏まえた上で、現代の私たちでも武士の心に共感できる部分があるかどうか自分の経験を振り返りながら記述する。	・自分自身を振り返り、当時の武士の心情と比較している。[ワークシート]
振り返り ・「表」の部分に共感できる。私自身も認められたいなどの欲の気持ちから、兄弟に対して意地悪をしたことがあるので。 ・「裏」の部分に共感できる。上の命令であっても同じ人間を殺すということはとても苦しいことであると考えたからだ。			

研究授業報告

10月12日(水)6限	校内授業研	学年教科	2年 国語
授業者	協力者	指導助言者	司会・記録
高橋 舞 教諭			井田 由紀 教諭 釘宮 里枝 教諭
学習内容	いにしへの心を訪ねる 「『平家物語』 「扇の的」「敦盛の最期」 『平家物語』の人物の心情に迫れ!~人物列伝を作成しよう~		
本時のねらい	古典の現代に通ずる部分を、「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の人物の心の「表」と「裏」を読むことを通して、当時の人々(武士)の心情に寄り添いながら、迫ることができる。		
「問い」を生み出す工夫	・「那須与一」「熊谷次郎直実」「敦盛」の心の共通点を追求する。 ・当時の人々(武士)の心情で現代の私たちが共感できることはあるか自分自身を振り返って考えを記述する。		
協議の柱	授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 【国語科】3人の武士の心情の対比が読み深め・共感に有効であったか。		

【授業の様子】

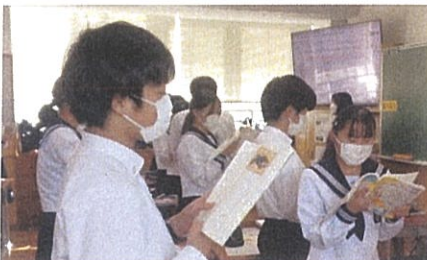
授業前に漢字の学習に取り組みます。



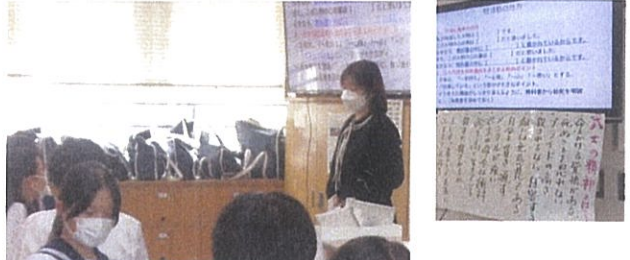
帯活動①これまでの学習を確認し合う活動をします。



帯活動②音読に取り組みます。



本時で取り組むことを明確にします。



自分が考えたことを共有します。



人物の「表」と「裏」について考えを整理する。



事後研報告

協議の柱	「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 【国語科】3人の武士の心情の対比が読み取り、共感に有効であったか。
------	---

【授業者の振り返り】

生徒は、説明的文章の読み取りに対して得意と感じている。また、「物語文」や「漢字・語句・文法」など高い関心を示している。しかし「古典」に対しては、そうではないことがアンケートよりわかる。行間を読む、行動から感情を読むといったことに苦手意識を感じているからだと推察される。そこで、今回の指導では、音読や語句の知識よりも、文言から心情を想像して登場人物と気持ちに共感することに重きを置いている。

- ・今回、人物の心情に迫るにあたり「表」と「裏」という言葉を選び、惹きつけ、深く考えさせることを目指した。他には、「美しさ」と「醜さ」などの意見もでた。
- ・今回 chromebook を使うことが効果的な話し合いの道具として適切だったかは不安である。CBの操作に気をとられ、話し合いの障害につながらないよう、上手に使っていく方法を模索していきたい。

【質問】

質問	回答
どの程度まで迫ることができれば、ねらいを達成できたと考えているのか。	教科書の文言から根拠を読みとることができてればねらいが達成できたと判断している。その結果、共感できるや共感できないのどちらでも問題はない。
「武士の精神とは何か」について何回目の授業から扱ったのか。	武士の精神については、2時間目からである。 1時間目は音読、2時間目は、内容理解を行った。 2時間目の感想で着目した「武士の卑劣さや残酷さ」をもとに3時間目「武士の精神」に迫る学習を重ねた。 この経験が「表」と「裏」に迫ることにつながったと考える。
導入の時間、生徒が進めていく時間があったが、いつから行っているのか？また、この活動の目的は何か。	授業の一部でも生徒がつくる場面を作りたいと考え単元を通して行っている。内容は、①漢字ノート、②フラッシュカード、③前回のふりかえり、④今日の流れ(7～10分)に7分～10分の時間をあてている
今日の授業の流れは、どうやって決めているのか。	今回は、教員が作成した。単元計画や授業の流れを生徒とつくる取組もしてみたい。
最後の活動は、「思・判・表」と「主体性」の評価か	思・判・表②で評価する。
研究部への質問 研究の方向性として、「問いを生み出す工夫」によって主体性をどうとらえているのか	主体性を生み出しているかどうかは、知識を活用したり、多様な思考・判断・表現したりするという生徒の変容が見られるかどうかだと考えている。 主体性を生み出すことを考える上では、教科の特性を無視できないので、本年度は、「問いを生み出す工夫」として設定している。今後の検討課題である。

【グループ協議】

A 班

- 文章を根拠にしながらか心理解が進んでいた。
- 生徒自身で授業が進んでいく(導入)姿が見られてよかった。
- △考えを述べた生徒に質問する時間を十分に確保すると、より深まった考えになると感じた。

B 班

- 導入の生徒の活躍がよい。
- 前時からのつながり、ふりかえりからの次時へのつながりがうまくできていた。
- △めあてが「問いを生み出す工夫」につながっているかは、若干疑問が残る

C 班

- 生徒の力を使って授業を進める導入は、意欲を喚起する面において効果的であると感じる。
- △ホワイトボードではなく、ジャムボードの中で、共通点を提示する方法も考えられる。
- △根拠を挙げることはできていたが、理由づけをでてきていない。より論理的な思考に迫っていくために、理由付けを意識することについて教科領域を超えて取り組むことが必要と感じた。

D 班

- 生徒が問いを引き受け、しっかり考えようとする姿が見られた。
- △1時間の中で評価を2つ行うのは難しいと感じた。

【寄せられた感想】※ふりかえりをもとに

音から入り書く活動につなげるという流れは英語の授業と共通点を感じた。テンポがあってよかった。導入等、生徒を全面に出して活躍させるという授業者の意図が伝わってきた。授業方法は教科によりいろいろあって良いと思う。このような工夫をもっと交流していきたい。生徒は振り返りを通して、次の時間の見通しを立てていた。既習学習を板書や掲示で活用しているところが参考になった。生徒は「表」と「裏」という視点を受け止めることができていた、視点を押さえたことで心情に迫りやすかった。めあてや本時の流れといった最初の時間を生徒が進めていくことが新鮮だった。課題の提示や論理的な説明の手立てなど、考える視点をいただいた。複数の人物の立場を想像し、対比し、最後に自分事として考えさせるという流れが道德教育によく似ている。試行錯誤しながら「表」と「裏」という言葉を選んだおかげで、生徒に思考を促させるのに有効だった。課題が生徒から出てくるともっとよかった。思考・判断・表現の指導の場面で主体性を引き出す授業であり、3観点のつながりを考えるきっかけになった。黒板に掲示したホワイトボードで他者の意見を確認しながら自分の考えをまとめる作業は、考えを持つことが苦手とする生徒にとって支援となっていた。ジャムボードを取り扱う部分や論理的思考力を育むための手法などについて研鑽を深めたい。学習委員や国語係に仕事を与えて導入を進める方法は、とても良いと思いました。生徒主体を追究した授業スタイルだったと思う。ただ、授業者の語り、言葉も多く交える場面も大事だと思う。

数学科学習指導案

令和4年11月9日(水)第6校時

1年C組 40名

指導者 石村 成葉

1 単元名 4章 [比例と反比例] 数量の関係を調べて問題を解決しよう

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・ 伴って変わる2つの数量を事象の中から取り出し、表、式、グラフを活用しながら、その変化や対応の仕方に着目して、関数関係の意味を理解することができるようにする。また、比例や反比例といった既習事項を、変域や比例定数を負の数に拡張したらどのようになるかを考えることで、変化と対応を一般的に考察し、統合の良さを感じられる単元である。
- ・ 比例や反比例における変化や対応の特徴を見だし、考察する際には表、式、グラフを用いて表現する。表では実験や観察の結果を記録し整理するのに有効な手段であり、それらを連続的に表すためにグラフを用いる。また、式は変化と対応の関係を簡潔に表すことができるといった違いがあり、三者の違いを感じながら目的に応じた数学的表現を選択する力を養うことのできる単元である。
- ・ 現実の問題を解決するために、厳密には比例や反比例ではないが、2つの数量の関係を理想化、単純化することによって、そのようにみなして結論を得たり、未知の状況を予測したりする力を養うのに効果的な単元である。

(2) 生徒について

- ・ 計算問題など、答えが1つに決まっているものの正答率が高い(1学期末考査より)。
- ・ 自分の考えを伝え・記述することを苦手とする生徒が多い。そのため、ペア学習では発言できるが、クラス全体で発表するのに抵抗のある生徒が多い(前期末アンケートより)。
- ・ 数学の授業では毎時間、めあてをもち、ペア学習で意見交換を行うなど意欲的に取り組むことができている。また、毎章末にレポートをかき、既習事項を利用して問題解決をしたり、自らの学習を調整する力を養ったりしてきた。問題解決では他にどのようなことからも数学を利用できるのか、興味を持つ生徒も増えている(振り返りシートより)。

(3) 指導について

- ・ ただ機械的に値を出したり読み取ったりするだけではなく、数の範囲を拡張したことや、文字を用いた式によって表現すること、座標平面上に数量の関係を表すことなど、小学校での比例と反比例とは異なる点を明らかにしながら、数学の世界の広がりについて考えられる機会を確保する。
- ・ 表、式、グラフの三者を関連させて考えることで、多様な考え方を共有して、どのような意見も遠慮なく出せるような雰囲気を作る。また、自分の考えを数学的に表現して伝え合う活動を授業に取り入れることで、自分の予想や結論を簡潔・明瞭・的確に表現する機会を確保する。
- ・ 身の回りの事象から比例や反比例といった関数関係を見つけることで、これまでの学習よりもさらに数学が身近にあることを感じさせる機会を確保する。

3 単元の目標および評価規準

簡単な多項式について、数学的活動を通して次の事項を身につけることができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 関数関係の意味を理解することができる。 ② 比例、反比例について理解することができる。 ③ 座標の意味を理解することができる。 ④ 比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。	① 比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ② 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	① 関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。 ② 比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

4 指導と評価の単元計画

4章 数量の関係を調べて解決しよう[比例と反比例] 4節 比例と反比例の利用【C 関数(1) 比例、反比例】

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			評価方法
			ア・技	イ・判表	ウ・主体	
	1 節 関数と比例・反比例(3時間)		○		○	
	2 節 比例の性質と調べ方(4時間)		○		○	
	3 節 反比例の性質と調べ方(5時間)		○		○	
	4 節 比例と反比例の利用(5時間)			○	○	
1	$a = bc$ で表される関係において、それらの数量間の関係を考える。	・スライドショーを作る際の関数関係を見つける。 ・ $a = bc$ の式から、どの文字を定数と変数とみるかで見方が変わる。		①	①	ノート 振り返り 行動分析
2	身の回りの問題を、比例のグラフを利用して解決する。	・車いすマラソンの応援をしよう。 ・グラフで表現することの良さは何だろうか。	④	②		ノート 振り返り 行動分析
3	身の回りの問題で、関数の関係にある数量を見出し、その関係を比例とみなして解決する。 →積まれた紙の枚数を知るために、その厚さや重さから枚数を推測する。	・実物の紙を用意して、生徒自身がデータを取る活動をする。 ・実際の値により近い値を知るために、どのようにしてデータを取ればよかったのか。		②	③	ノート 振り返り 行動分析
4	章の振り返り				全	振り返り
5	4章 まとめの学習 単元テスト		全	全		テスト

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・目的に沿った問題を使い、内容理解を進めさせる。
- ・発表前にペア活動を取り入れることで、自信をもって発表することができるようにする。
- ・節末や章末の振り返りでは、わかったこと・大切なことと疑問に思うことを書き出させることで、思考の整理を行わせる。
- ・本時では特に、実際の紙の重さや厚さをはかり、枚数が増えたり減ったりすることで、重さや厚さが増えたり減ったりすることを見せ、ともなって変化する数量関係に着目させる。また、生徒自身がデータを集め、関係を見いだす際に、グループ活動にすることで、教え合い活動の機会を増やす。

5 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (3 / 5)

(2) 題材名 「比例と反比例の利用 比例の関係とみなし, 未知のことを推測する」

(3) 本時のねらい

多くの紙の枚数と, その厚さや重さの数量の関係を比例とみなすことで, その枚数を推測することができる。

本時における「問い」の工夫 (数学科)

- ・ 実物の紙を用意して, 生徒自身がデータを取る活動をする。
- ・ 実際の枚数により近い値を知るために, どのようにしてデータを取ればよかったのかを振り返る。

(4) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点(問いの工夫)	評価
5	本時の学習内容の確認 見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 段ボールに入った古紙を見せて, 問題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">めあて: 全校で集まった紙の枚数を推測しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ すべてを数え上げるのは大変なので, おおよその紙の枚数を推測するためには, 紙の厚さや重さをはかることが有効であることを確認する。 ○ クラスで統一したデータとして, 古紙すべての重さ, 厚さを実際にはかってみせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">課題: 枚数を推測するための方法の手順とは?</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 紙の枚数はその厚さや重さと関数関係があることを言うには, 変化と対応の様子を調べる必要があることをおさえる。 	
10	班でデータをとる。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">工夫: 実物の紙を用意して, 生徒自身がデータを取る。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4人班に分かれ, 厚みを測るか重さを量るかを決めさせる。 ○ 比例とみなすために, どんなデータをいくつ取ればよいか検討させる。 ○ 班の方針に従って, 厚みを測る定規, または重さを量るはかりを使って, 厚みや重さをはからせる。その際には, どのようなはかり方をしたのかもメモをさせておく。 ○ 比例とみなすことによって, 得られたデータから紙の枚数を推測させる。 	
15	2 数の関係を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 結論に至った過程を, 表, 式, グラフなどを用いて, ホワイトボードにまとめさせる。 【ホワイトボードを撮影, classroom に提出】 ○ 厚さ班 2 班, 重さ班 2 班に発表させる。 	表, 式, グラフを用いて事象について表現している【1②】
15	班のデータの取り方を比較して再検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集まった紙の枚数の正解を動画で発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">工夫: 実際の枚数により近い値を知るためには, どのようなデータの取り方がよかったのか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えに近かった班と, 遠かった班のデータのとり方の違い・工夫を考えさせることで, 比例定数(1枚当たりの厚さ, 重さ)に注意を向けさせる。 ・ はかるときにどのような種類の紙を選んだか。 ・ はかるときの枚数は何枚であったか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">まとめ: 紙の枚数と重さ, 枚数と厚みを比例とみなして必要なデータをとることで, () 枚というふうには, おおよその古紙の枚数を当てることができる。</div>	解決過程を振り返っている【ウ③】
5	学習内容および活動の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の変容(わかったこと, できるようになったことなど)や学習内容(気付いたことなど)の振り返りをさせる。 ○ 紙1枚の重さや厚さには誤差があるが, 比例と「みなす」ことで問題を解決することができることに気付かせる。 ○ 同じように古紙があった場合, 今回の比例定数(調べる紙の枚数や種類によって正確さが変わる)を用いれば推測できることに気付かせる。 	

研究授業報告

11月9日(水)6限	校内授業研	学年教科	1年 数学
授業者	協力者	指導助言者	司会・記録
石村 成葉 教諭	川寄道広 教授 中川裕之 教授 (大分大学教育学部)	岩矢 隆史 指導主事 (大分県教育センター)	高木 博也 教諭 草場 博文 教諭
学習内容	4章「比例と反比例」 数量の関係を比例・反比例をみなして問題を解決する。		
本時のねらい	多くの紙の枚数と、その厚さや重さの数量の関係を比例とみなすことで、その枚数を推測することができる。		
「問い」を生み出す工夫	・実物の紙を準備し、枚数を求める活動を設定する。(数学を使って考える活動) ・より近い値を求めるために比例定数をどのように設定すればよいか(発問)		
協議の柱	授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 【数学科】設定した活動は、数学を使って課題を解決するのに有効であったか。		

【授業の様子】

一カ月かけて教材となる古紙を集めました。



数値を計測する道具を選びます。(重さと厚さ)



比例とみなして、枚数を推測します。(グループ活動)



全体で共有する情報として重さと厚さを計測します。



必要な情報を集めます。



求める方法を共有した後、動画で枚数を確認します。



事後研報告

協議の柱	<p>授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。</p> <p>【数学科】 設定した活動は、数学を使って課題を解決することに有効であったか。</p>
------	---

【授業者の振り返り】

<p>比例と反比例の単元の最後の活用の場面。新品のコピー用紙のような整ったものではなく、厚さなどバラバラな紙の束を準備することで、小学校と中学校の学習内容の違いを意識させながら日常と結びける良さを実感させたいと考えて教材を準備した。「比例とみなして考える」を焦点に授業づくりを行った。</p> <p>ノギスなどの道具の使い方に戸惑ったり、100枚など数えるのに時間がかかったりして、必要なデータをとること自体に時間を費やしすぎた。データをとる前に「解決方法」の見通しを持たせることはできた。</p> <p>同じ枚数で平均をとる班が多く、枚数を増やしながらデータをとる（変化の様子）を捉えることができた班は、2つあった。</p>

【質問】

質問	回答
<p>比例の活用を意識した生徒はどのくらいいたか。それは、どの場面で意識をしていたか。</p> <p>「比例とみなす」ことをしなくてもできるものなのか</p>	<p>比例とみなした生徒は多くいた。ただし、ほとんどの生徒は、これまでの経験からなんとなくみなしたという生徒が多く、データから比例を類推した生徒は少ない。</p> <p>予想なのでいろいろな方法を思いつくだろう。</p> <p>この学習内容では「比例とみなす」根拠をグラフや表を使って、データとして示した班の活躍にもっと焦点をあてればよかった。</p>
<p>前時の学習ではどのような学習内容を扱ったのか。</p>	<p>「車いすマラソン」を話題にして、道のり、速さ、時間の関係をグラフに表すことの良さについて考える学習をした。</p>
<p>グラフ用紙を用意していた意図は何か。また、どのようなことに期待したか。</p>	<p>グラフを用いて、予想する場合を想定したから。計算ではなく、座標の読み取りで「おおよそ」をつかむ考え方が出ることを期待した。グラフ用紙を手にする生徒が少なかったのは、グラフの有用性を感じさせることが不十分だからと感じた。</p> <p>また、みなせるかを考える場面でなんとなく直線になっていることをつかむことにも利用してほしかった。</p>
<p>紙のサイズや別々の厚さなど混ぜていたの意図はどこにあるか</p>	<p>新品のコピー用紙など統一の紙だと特別な場合となり「みなして」数学をつかうことにはならないと考えたから。データの多少のズレを考慮しながら数学を使う経験をさせ、「比例とみなす」ことで理想化することの良さを感じさせたいと考えたから。</p>

【グループ協議】

<p>○実物の紙を準備して教材としていたのが良い。</p> <p>○検証VTRで正解を確認したあと、自分たちが求めた方法（正しい、より良い）を振り返る場面が必要である。</p> <p>○比例を使わず解決した生徒に、「比例のよさ」に気づかせる場面にもう少し工夫をすべきである。</p> <p>○日常とつなぐ題材設定が良い。「本当に比例なの？」という揺さぶりが欲しかった。</p> <p>○個で考える時間が不足している。</p> <p>○グラフ用紙を使うという指定をするとグラフを使ったのではないか。（関数の見方・考え方を培う場面として）</p> <p>○比の考え方ではなく「比例」ととらえさせる工夫が欲しかった。</p> <p>○検証方法（何を使って解決するのか）を自分たちで選ぶことは良かった。</p> <p>○課題は比例とみなさずに解決している班をどう評価するか。また、ひとりひとりをどう評価するかを考える必要がある。</p>
--

【指導助言】

事後研では、様々な教科の教員が意見を出し合いながら深いところまで話し合いができています。数学科における「主体的な学び」を生むポイントは、きっかけとなる「ずれ、違和感、課題」を感じるまでの流れと振り返りの充実「憧れ」の場面と考える。

今回の授業では、問題を発見する過程が弱かった。「求めざる得ないや求めたいなどの必然性があるか」や「こどもの思考の流れに沿っているか」など、やりとりの中で学習者に学習内容を引き受けさせたい。

課題を引き受ける場面では、子供の事態に応じて見通しを持たせる工夫をしたり、発言がみんなの意見に役に立ったなどの自己存在感を感じる場面を設定したり、共感的な傾聴や対話によって知と知をつないだりといった経験をどれだけ積み重ねるかといった生徒指導 3 機能を大事にしてほしい。

ICT の活用は、即時共有の発表に使うのに効果的である。

生徒に作業させた後、検証の場面でビデオを見せることは有効である。

評価においては、生徒が「表・式・グラフ」を関連付けながら、事象を表現していることに着目すべきだった。また、単位量あたりの計算を比例定数と認識できていることや比例であることを縦と横の見方で理解していることを確実に抑えるようにして、この関係（理想化すると）は「比例とみなせる」といえるようにしたい。一人の意見を拾うだけのまとめで終わるべきでなく、このような活動がある授業では「子供の意見をまとめる」に注意をはらい、先生が理想化することが求められると考える。

【寄せられた感想】※ふりかえりをもとに

- 班発表のあと自分たちの方法を振り返ると思考が深まると思う。生徒の振り返りの場面を見たかった。
- 生徒の興味を引き出す学習題材であり、全員が学習に向かっていた。
- 生徒の言葉でまとめを書いているのはよいが、課題とのつながりとしては疑問が残る。
- 古紙の束や実際に数えたことが伝わる検証ムービーも、生徒の興味を引く教材であった。比例を使えるかどうかの揺さぶりに時間をかけたかった。そう考えたときに課題は適切だったかを見直すことも大事と思う。授業について深く考えさせられる内容だった。
- 生徒たちが伸び伸びと授業に参加している。題材もとても面白く、生徒が楽しそうに活動していた。
- 生活と教科の学びを楽しく結びつけようとする工夫がなされていた。
- 生徒の思考に沿った展開を今後も大切にしていきたいと思う。学び多き研修になった。
- 授業では、なぜその活動をするのかという動機付け、それがどう役立つのかという見通し大切だとわかった。
- 生徒が楽しく取り組んだという点で、とてもよい課題である。ただ、課題がねらいを達成するために適切だったかは再検討をすべきである。
- 一番近い値を出した班の考え方が比例だったのあれば、比例の良さや有用性につながると思うがそうでない場合、課題の吟味が必要だと思う。
- 個人で考える時間を確保すべきであった。答えを導き出す班活動は、数学を苦手とする生徒には良かった。
- 考える時間を十分に取るのは難しいと思う。最後のまとめをする時間を確保する工夫を考えたい。
- 題材が日常に結びつくものであるため、生徒の関心は高まっていた。枚数を当てることも大事だが、「比例を使うことの良さ」に生徒たちが気づくようなまとめや振り返りにできるとよかった。
- 数学科で協力して授業を作り上げようという姿勢が見られた。指導助言でいただいた、生徒が主体的になるきっかけの『ズレ』『違和感』『憧れ』の説明が参考になった。『問い』を持たせる工夫を考える参考にしたい。
- 題材が非常に面白かった。日常と数学を繋げて課題に取り組もうとする姿勢が、多くの生徒から見られた。個人で考える場面がもう少しあるとよかった。
- 生徒が主体的にデータ収集をしていたことが良かった。
- 比例とみなすという部分を考えさせるとき、グラフ上でのデータの扱い方を意識させると良かった。

音楽科学習指導案

令和4年11月24日(木)第6校時

1年A組 39名

指導者 田村 有実子

1 題材名 「マイソングをつくろう」

2 題材設定の理由

(1)教材について

- ・本題材は、自分の性格を表現した曲をつくるという「作曲」だけでなく「自分自身にも関心を持つ」ということも考えて選んだ。初めての創作活動でもあるので、身近な題材の方が興味を持つのではないかと考えて設定した。
- ・8小節という短い曲ではあるが、自分の性格を表現するために必要な要素を考え、工夫を重ねることができるとある。表現したい性格によって音の長さや音色の違いなどがあることに気づかせ、自分の性格を旋律で表現するための方法を考えさせる。そして完成した時には、自分のものとしての満足感や達成感を味わえる題材である。

(2)学習者について

- ・7月に実施した教科アンケートで音楽の授業が好きだと答えた生徒は46.6%であり、歌唱、器楽、鑑賞、創作の4分野の中で創作が一番好きだと答えた生徒は2.5%だった。この時点で創作の授業はしておらず、小学校でも経験がほとんどなかったのではないかと考える。
10月の作曲に関するアンケートでは、作曲に興味がある生徒は53.8%、作曲したことがある生徒は15.3%という結果だった。作曲したことがある生徒の手段としては、5線紙に記譜が多く、他にはアプリやソフトを使用していた。
- ・前期の授業で、音符の名称や長さの復習とリズムについての学習をしている。また、リズム聴音を行い、記譜法だけでなくリズムを聴きとる力をつけた。
- ・本学級は、音楽の基礎知識が定着している生徒が多く、現在までに行った歌唱や鑑賞の学習においても、積極的に参加し、感受性が豊かである。

(3)指導について

- ・初めての創作活動であり、また初めて ICT を使った創作である。今回は「ソングメーカー」を使用するが、それを操作することが目的ではなく、イメージしたものを表現するツールの一つとして捉えさせたい。5線紙を使った記譜法も大切なので、両方の特徴を学ぶ機会にしたい。
- ・本題材を通して、音のつながり方の特徴と自分の表したいイメージとの関わりについて理解させるとともに課題や条件に合った音の選択や組み合わせ方などの技能を身に付けさせながら旋律をつくらせ、創作表現を創意工夫できる力を身に付けさせたい。

3 学習指導要領の指導事項

A 表現(3)創作

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
- イ(ア)音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
- ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

思考・判断のよりどころとなる要素 … リズム・旋律

4 題材の目標および題材の評価規準

ア、音のつながり方の特徴と表したいイメージとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。

イ、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚・感受したことの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、創作表現を創意工夫する。

ウ、イメージを基に短い音楽をつくることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に創作の学習活動に取り組む。

ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
① 音のつながり方の特徴と表したいイメージとの関わりについて理解している。 ② 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	① リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	① イメージを基に短い音楽をつくることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			評価方法
			ア知・技	イ思判表	ウ態	
1	打楽器を使い、性格を表現したリズム創作をする	・性格を表現するのに必要な要素（知識や工夫）を考え、リズム創作に活かす （テンポ、音色、音の長さ、音域、調、拍子） ・表現したい性格によって音の長さや音色の違いなどがあることに気づかせる ・ソングメーカーに慣れさせる	①		①	ワークシート 観察
2 本時	自分の性格を表現した「マイソング」を旋律で創作する	・自分の性格を旋律で表現するための方法を考えさせる （前時の内容に加え、音の高さにおいて、跳躍進行、順次進行などに気づかせる） ・班員に聴いてもらい、アドバイスをもらう（中間発表）	②	①		ワークシート 曲の提出 観察
3	曲を完成させ、班で聴き合い、曲の工夫を見つける	・工夫を明確にし、曲を仕上げる ・表現方法を再確認し、班で聴き合う際に曲の工夫に気づかせる		①	①	ワークシート 曲の提出 観察

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・イメージと音素材、旋律の特徴を視点に、教師の例を示したり、近くの席の生徒の様子を観察させたりする。
- ・創作活動のどの部分で生徒が滞っているのかを観察したり尋ねたりするなどして把握し、解決の手がかりがつかめるように具体例を示す。

5 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ(2 / 3)
- (2) 題材名 自分の性格を表現したマイソングをつくろう
- (3) 本時のねらい

自分の性格を旋律で表現する活動を通して、音のつながり方を工夫しながら思いや意図をもって創作することができる。

本時における「問い」の工夫(音楽科)

- ・自分の性格を表現するために、必要な要素をもとに設定を考えさせ、ソングメーカーを使うことで自分のつくった曲を随時確認できる。
- ・班で曲を聴き合い、その性格を表現できているかを聴き取り、アドバイスする。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1 前時の復習をし、本時の学習内容を 確認する。	○前時に学んだ「創作に必要な要素」についてふりかえらせる。 (テンポ, 調, 音色, 音域, 音の長さ, リズム)	
自分の性格を表現したマイソングをつくろう			
15	2 創作の条件を知り、表現の工夫について考える。	○今回の創作の条件を知る ・単旋律, 8 小節, 4 分の 4 拍子, 自分の性格を表現する。 ・以前アンケートで書いた, 自分の性格とイメージカラーを記入させる。 ○表現するために必要な要素を復習し, 旋律を加えることでさらに必要なことを考えさせる。 テンポ, 調, 音色, 音域, 音の長さ, リズム + 音の高さ…跳躍進行, 順次進行, 上行, 下行	
20	3 マイソングをつくる。	○各自ワークシートとイメージメモに記入し, 創作させる。 (イメージは 8 小節分, 曲は最低限 4 小節分) <例: 元気> ♩=120, ハ長調, ピアノ, 高め, 短い・付点, 跳躍進行・上行多め	ア④[観察] イ① [ワークシート]
5	4 班で聴き合い, アドバイスする。	○班ごとに作品を発表し, 意見交流をさせる。 ・各項目の設定はその性格を表現するのに適しているか考えさせる。	イ①[観察]
5	5 ふりかえりを行う。	○ワークシート記入 曲の提出	イ① [ワークシート・曲の提出]

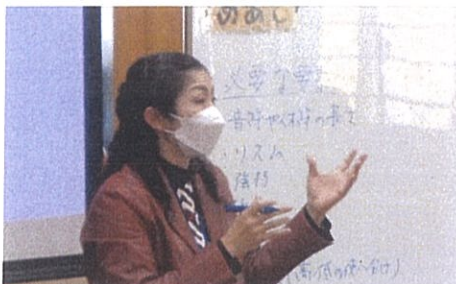
協議の柱: 性格を表現するための設定を考え, ICT を使って表現することは創作意欲につながったか。

研究授業報告

11月24日(水)6限	校内授業研	学年教科	1年 音楽
授業者	協力者	指導助言者	司会・記録
田村 有実子 教諭			草場 博文 教諭 矢治 朋恵 教諭
学習内容	単元「マイソングをつくろう」～自分の性格を表現してみよう～		
本時のねらい	自分の性格を旋律で表現する活動を通して、音のつながり方を工夫しながら思いや意図をもって創作することができる。		
「問い」を生み出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の性格を表現するために、必要な要素をもとに設定を考えさせる。 ・アプリ「ソングメーカー」で自分のつくった曲を随時確認しながら作業をさせる。 ・班の交流で、その性格を表現できているかを聴き取り、アドバイスし合う活動をする。 		
協議の柱	授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 【音楽科】性格を表現するための設定を考え、ICT を使って表現することは創作意欲につながったか。		

【授業の様子】

「創作に必要な要素」について振り返ります



ソングメーカーで、マイソングを創作します



できた曲を互いに聴き合います



ワークシートでイメージを深めます



メモと照らし、確認しながら作曲します



班でアドバイスや感想を交流します



事後研報告

協議の柱	<p>授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。</p> <p>【音楽科】性格を表現するための設定を考え、ICT を使って表現することは創作意欲につながったか。</p>
------	---

【授業者の振り返り】

音楽の授業には、歌唱・鑑賞・創作などの授業内容がある。コロナ禍の影響で、歌唱が思うようにできていない状態がある。創作は時間の確保が難しく、いろいろなことをしようとする内容が盛りだくさんになりやすい題材である。生徒はソングメーカーを初めて利用することもあり操作方法の不慣れにより手間取った場面も見られた。ソングメーカーは、イメージしたものを手軽に表現するツールとして活用している。生徒は、自分の考えたものの音がつながる様子やイメージしたものを表現できているかなどを確認しながら進めることができていた。

この授業では、生徒が自分の創作するイメージを丁寧に記入することに重き、まず作ってみようとする生徒より多くいた。書くことに時間をかけすぎ、ソングメーカーで創作にあてる時間が少なくなってしまった。

授業の題材を「自分の性格」にしたのは、どんなテーマにすると生徒がワクワクしながら作業できるかという視点で考えた。選手の入場テーマ曲のように自分にまつわる曲を考えさせるイメージである。4小節にすればよいという考えもあるが、本校の生徒には、8小節にチャレンジさせたいと考えた。まずは楽器の演奏方法や楽譜のかき方がわからなくても、曲を作る楽しさや面白さを感じさせる時間にしたかった。実際、生徒の意見からは、創作に対して前向きなコメントが聴かれたのは嬉しい。迷いながら実施した授業なので、たくさんの意見をいただき今後の参考にしたい。

【質問】

質問	回答
生徒の目指す姿として、「マイソングをつくる」というめあてを立てているが、創作活動が少なかったように感じた。そのことをどう考えているか。	創作にあてることができた時間は短かった。そのため、本時は8小節中の4小節と絞った。アプリの操作方法についての確認が必要だったのと、どんな要素を大切にするのかをじっくり考えさせる部分に時間をかけすぎた。
評価規準のイ①にある『「思い」や「意図」を持っている』というのは、それぞれどういう内容だととらえているのか。	「思い」を込めさせるまではできなかった。「元気」「明るい」を表現するために「跳躍進行を使う」といった「意図」のある創作をさせたいと考えたが、直感的な創作となってしまった。つなげる工夫が必要だった。
意図に合わせた表現方法を選択するための知識・技能は、習得できているのか。	音の長さについては、前期に小学校の学習内容を復習している。旋律については本時が初めてである。意図をもって旋律を選択するのは難しいため、例を提示するなど工夫すればよかった。次の時間には、「意図」を持たせることを押さえて 創作させたい。
ソングメーカーを使う以前はどのようにして創作の授業を行っていたのか。また、そのときの方法と ICT を活用することで生徒の意欲は以前とどんな違いがあったのか。	以前は、簡単に音符をかいて手拍子で表現するリズム創作をしていた。旋律をつけるような創作はこれまで難しかった。昨年、他学年の授業で、詩をつくり、リズムにのせる創作を行なった。ソングメーカーを使うことで、旋律をつける授業に挑戦する取組ができた。 意欲については、手拍子と ICT を使うのではそんなに変化はないように感じるが、機器操作ができるほどに、集中しながら創作していたようである。メロディをつくるのに、このアプリは有効だと感じている。

<p>アドバイスし合う活動では、どんなアドバイスが出るよかったのか。</p>	<p>リズムについては、アドバイスをし合うことができていた。旋律について「明るさを表すには高い音色がいいよ」といったアドバイスが出て欲しかった。リズムと旋律の2つにアドバイスをすることになったので難易度があがり意見が出にくくなってしまったと感じる。</p>
--	--

【グループ協議】※A 班は無し

- ソングメーカーを使うことですぐに作曲・聴いて再編集できる点はとてもいい。操作において、できる生徒とできない生徒に差が生まれたのが残念だった。操作マニュアルを資料として classroom にあげるなど対策をするとよかったと感じる。
- C 層の生徒や目的をはずれ操作自体を楽しんでしまう生徒への手立てをどのようにするかも課題である。
- 班での聴き合う時間を確保したり、前時までに様々な曲を聴いたりするなどインプットの時間を大事にすると「思い」や「意図」のある創作活動になったのではないかな。
- ソングメーカーを使うことは、生徒の持つ才能や特技を新たに発見する機会となっていた。
- テーマとして「自分の性格」を取り上げることが表現を難しくしたかもしれない。一人一人が設定するのではなく、例えば「担任の先生のテーマソング」のように設定を共通するとアドバイスをしたり、作品を共感して聴けるのではないかと考えた
- 出来上がった作品をどのようにして評価するかが難しいと感じた。また、お互いに送りあったアドバイスを取り入れている様子をどう評価するかも難しいと感じた。
- ソングメーカーを使って曲をつくるというツールは有効な手段だった。
- 意見交流するとき自分の性格をというのがそれぞれ違うため、どの要素をつかってどう表現したかなど評価する基準をはっきりさせることが望ましい。曲の雰囲気だけでなく、要素に注目し、どのような工夫を取り入れたかを意見交流できるようになるとよいと感じた。

まとめ

- 「創作に必要な要素」についてのやり取りは良かった。
- ICT を活用することで、自分が考えたことをすぐに音として表せることや創作した曲を誰かに聴いてもらえることができたというのはすごく魅力的に感じた。なにより生徒が楽しそうに活動している様子を良いと感じた。このような授業であれば音楽を「苦手」とならないだろう。
- 「自分の性格」を旋律に乗せて表現するのは難しいとは思った。ただ、ICT を使い新しい学び方を模索する授業は良いと感じる。校内研だからこそできると思う。今回のソングメーカーなど web アプリの活用が広がってきたと思う。自分も活用できそうなものを探してみたい。
- 自分の性格が難しいという意見もあったが、自己理解や他者理解ということを考えてとても重要で面白い授業だと思った。ぜひ、来年度以降の続編も期待したいです。
- 創作活動、特に「意図」をどのように評価するか明確にする必要があると感じた。
- 技能教科における評価の基準をどのように設定するかは参考になると思う。アドバイスをし合う活動では、どこに着目させて意見を述べるかなど積み重ねの活動が大事だとわかった。アドバイスをし出しやすい発問を考えたい。
- 見ていて楽しかった。創作する時間を多くとることができるようになりたいが、前半の知識技能の部分の押さえも必要といった場合どうすればよいか悩む。
- ソングメーカーを活用することで、作曲活動を音楽が苦手な生徒も簡単に取り組むことができた。ソングメーカーの取扱説明書をスライドでつくることで使い方の難しさをカバーできるだろう。ベースとなる曲を楽しさや悲しさといった「意図」をもって編集する活動を準備活動として入れると作曲しやすさにつながるかもしれない。学年を重ね、経験を積むことで上手くなると思う。

1 単元名

Lesson 7 Wheelchair Basketball
「尊敬する偉人の魅力をマチュー先生に伝えよう」

2 単元設定の理由

(1)教材について

- 本単元は、障がい者向けのスポーツが題材である。終末のエッセイでは、車いすバスケットボール日本代表の網本麻里選手の競技人生について読む。困難を乗り越え競技の第一線で活躍している網本選手の生き様を知ることによって、夢や目標に向かう勇気をもらったり、尊敬する人物の魅力に今一度目を向けたりすることに適した教材である。
- 新出の言語材料は be 動詞の過去形と過去進行形の肯定文、否定文、疑問文である。その用法を理解し習得することによって、学習者は、過去の状態や限られた期間内においてなされていた動作について、正確に表現することができるようになる。
- 学習指導要領 1 目標(3) 話すこと[発表] イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」指導と位置付ける。

(2)生徒について

- 本学級の生徒は、意欲的に英語学習に取り組める。単語の発音練習や音読練習、会話活動を活気のある雰囲気で行える。また、誰とでもペアを作り、滞りなく活動に参加できる。一方で、自分の英語表現の正確さに自信が持たずに発表することに消極的になりがち傾向がある。
- 令和4年11月に実施した授業アンケートの結果を見ると、約5割の生徒が「話す」ことに苦手意識を感じている。一方で、「聞く」「読む」「書く」については、約7割の生徒が得意と感じている。「話す」ことへの苦手意識が他の領域に比べて強いことから、学習者の得意とする「読む」「聞く」から得た情報について「話す」活動を通して、苦手意識を克服させたい。
- 英語の授業としては、各単元末にALTへの発表活動を設定し、既習の語句を積極的に用いて表現させてきた。また、本文内容理解では、登場人物に関する発問の答えを英語で発話し合わせることで、即興的運用力を高めてきた。さらに、語彙習得のために、chromebook(以下、CBとする)の語彙シートで単語クイズを出し合う活動を継続的に行ってきた。

(3)指導について

- 指導にあたっては、単元を通して学ぶ be 動詞の過去形を用いて、尊敬する偉人の魅力を発表する言語活動を設定する。これまで指導してきた Opening, Body, Closing の構成を意識して発表することを促す。また、言えなかった英語表現や誤用が多かった表現を全体で共有する時間をとることで、正確な英文で発話できるようにする手立てとする。
- 「話す」ことに苦手意識がある生徒に対しては、単元の始めに発表の型を示したり、全体で言えなかった表現を共有したりすることで改善を図る。また、つなぎ言葉を指導したりすることで、紹介したい人物について30秒以上話し続ける手立てとする。さらに、尊敬する偉人の魅力が伝わるためにはどのような情報を伝えればよいかについて、CBを用いて全体で考えさせることで、発表内容の充実を図り、「話す」意欲につなげる。
- 言語活動後に中間指導の場を設け、クラスメイトの優れていた点を共有することで、発表を内容面と言語面と二方面から深めさせたい。

3 単元の目標および評価規準

ALT の先生を感心させるために、紹介したい人物の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①be 動詞の過去形の肯定文、否定文、疑問文と過去進行形の意味や働きを理解している。 ②紹介したい人物の魅力について、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話す技能を身に付けている。	紹介したい人物の魅力について、ALT の先生を感心させることができるように、既習事項を駆使しながら、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	紹介したい人物の魅力について、ALT の先生を感心させることができるように、既習事項を駆使しながら、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話そうとしている。

4 単元計画と評価計画及び方法

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			評価方法
			知技	思判表	態度	
1	単元の目標を知り、見直しをもつ。	【I】単元のゴールを知ろう。 【II】尊敬する偉人の魅力が伝わるために必要な情報には何があるか考えよう。	/	/	/	/
2	【Get Part1】マークのビデオメッセージを理解する。	【I】be 動詞の過去形の文構造と意味を理解しよう。 【II】マークのビデオメッセージを聞き取ろう。	①	/	/	小テスト
3	【Get Part1】マークのビデオメッセージを参考に、冬休みの思い出を伝える。	【I】冬休みにしたことを伝え合おう。 【II】自分の気持ちとともに冬休みの思い出を語ろう。	②	/	/	行動観察 ワークシート
4	【Get Part2】マークとジンの電話のやりとりを理解する。	【I】過去進行形の文構造と意味を理解しよう。 【II】ジンがマークに電話した理由を聞き取ろう。	①	/	/	小テスト
5	【Get Part2】クラスメイトの自宅での過ごし方調査をする。	【I】昨晚のクラスメイトの過ごし方を調査しよう 【II】調査結果の感想をグループで伝え合おう。	②	/	/	行動観察 ワークシート
6	【USE Read】網本選手のエッセイから読み取れる情報を相手に伝える。	【I】網本選手の魅力が伝わるのに必要な情報を読み取ろう。 【II】網本選手の魅力を伝えよう。	/	/	/	/
7 本時	【USE Read】マチュー先生に紹介したいスポーツ選手の魅力について紹介する。	【I】自分の好きなスポーツ選手の魅力がマチュー先生に伝わる発表をしよう。 【II】クラスメイトの発表のよいところから学ぼう。	/	○	○	行動観察 google スプレッドシート
8	尊敬する偉人の発表準備をする。	【I】尊敬する偉人をグループで出し合おう 【II】尊敬する偉人の魅力が伝わる発表準備をしよう。	/	/	/	/
9	尊敬する偉人をマチュー先生に発表する。	尊敬する偉人の魅力をマチュー先生に伝えよう	/	○	○	行動観察 google スプレッドシート
後日	ペーパーテスト	・ペーパーテストに取り組みさせる。	①	○	○	ペーパーテスト

単元末の言語活動で期待する生徒の姿

Hello. How are you? Do you know this great person? No? OK. Today, I will tell you about him.

This is Ichiro Suzuki. He was a major leaguer. He was a star. He was in Seattle Mariners. He made two hundred hits every year. This is amazing! Other players could not do it. He practiced and played very hard, but he didn't get hurt. He always tried his best. He was very strict to himself.

He was the best player in the world. I like him. Thank you for listening.

5 本時案(7/9)

(1)題材名 Lesson7 USE Read: Wheelchair Basketball

(2)本時のねらい 自分の好きなスポーツ選手の魅力を,その人物の功績や特徴に自分の気持ちを添えてマチュー先生へ伝える練習をする活動を通して,即興的に伝えることができるようにする。

(3)展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
5 4 3	1.偉人クイズをする。 2.前時の復習をする。 3.本時のめあてを知る。	○ペアでクイズに取り組ませ,言えなかった英語表現を全体で共有する。 ○前回の内容を振り返る。	
		自分の好きなスポーツ選手の魅力がマチュー先生に伝わる発表をしよう。	
7 12	4.発表の準備をする。 5.グループで発表する。 (1)ルール説明をする。 (2)発表をする。	○グループで知っているスポーツ選手を出し合わせる。 ○魅力が伝わるために必要な情報について考えたことを復習する。 ○必要な情報をCBで調べさせ,マインドマップにまとめさせる。 ○早く準備が整ったら発表練習をさせる。 ○CBに紹介する選手の写真を表示させる。 ○発表者,聞き手(マチュー先生役),オーディエンスの役割を与え,交代させる。	紹介したい人物の魅力について,事実や自分の考え,気持ちなどを,簡単な語句や文を用いて,話している。【思考・判断・表現】(行動観察)
4	6.中間指導を行う。	○言語面や内容面について,班員の優れていた点を発表させ,全体で共有する。 予想される生徒の意見 ○言語面 ・ Do you know him/her?と確かめていた。 ・ I think を使って自分の考えを伝えていた。 ○内容面 ・ 世界初のことを成し遂げた,ということを伝えていた。 ・ その人の人柄や性格も伝えていた。	
10	7.再び発表する。	○グループのメンバーを変えて,複数回取り組ませる。	
5	8.振り返りをおこなう。	○google スプレッドシートに自己評価を記入させる。 ○数名に振り返りを発表させる。 ○次時で,尊敬する偉人についての発表準備をすることを予告する。	紹介したい人物の魅力について,事実や自分の考え,気持ちなどを,簡単な語句や文を用いて,話そうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(google スプレッドシート)

本時の言語活動で期待する生徒の姿

Hello. How are you? Do you know this great person? No? OK. Today, I will tell you about him.

This is Ichiro Suzuki. He was a major leaguer. He was in Seattle Mariners. He made two hundred hits for ten times. This is amazing. He could hit the ball really well.

He is my hero. I like Ichiro very much. Thank you for listening.

単元の評価規準	観点	十分満足(A) 3点	おおむね満足(B) 2点	努力を要する生徒への手立て
① be 動詞の過去形の肯定文,否定文,疑問文と過去進行形の意味や働きを理解している。 ②紹介したい人物の魅力について,簡単な語句や文を用いて,まとまりのある内容を話す技能を身に付けている。	知識 技能	①② 誤りのない正しい英文で話している。	①② コミュニケーションに支障のない範囲の間違いで話している。	①○英語で言えなかった表現を全体で確認する時間を設ける。 ○クラスルームイングリッシュで教師が積極的にbe動詞の過去形や過去進行形を用いて生徒とやり取りをすることで,繰り返し言語材料にふれる機会を作る。 ○語順カードを黒板に貼り,参考にさせる。 ②○発表の中間指導で,級友の優れた表現を全体で共有し,参考にしよう促す。 ○発表の型を全体で共有し,参考にさせる。
紹介したい人物の魅力について,ALTの先生を感心させることができるように,既習事項を駆使しながら,事実や自分の考え,気持ちなどを,簡単な語句や文を用いて,話している。	思考 判断 表現	○紹介したい人物の魅力について,40秒以上とまらず話し続けられる情報を用意しており,より多様な視点からその人物の魅力を伝えている。	○紹介したい人物の魅力について,30秒程度とまらずに話し続けられる情報を用意しており,複数の視点からその人物の魅力を伝えている。	○発表の型を全体で共有し,参考にしよう促す。 ○適宜つなぎ言葉の指導を行う。
紹介したい人物の魅力について,ALTの先生を感心させることができるように,既習事項を駆使しながら,事実や自分の考え,気持ちなどを,簡単な語句や文を用いて,話そうとしている。	主体的に学習に取り組む態度	○聞き手を意識して発表しようと工夫していることに加えて,自己調整をしようとしている。	○聞き手を意識して発表しようと工夫している。	○中間指導で共有した内容を積極的に活用しよう促す。

研究授業報告

1月25日(水)6限	校内授業研	学年教科	1年 英語
授業者	協力者	指導助言者	司会・記録
白根 和延 教諭		田代 和馬 指導主事 (大分県教育庁義務教育課)	司会:草場 博文 記録:英語科
学習内容	単元 Lesson 7 Wheelchair Basketball 「尊敬する偉人の魅力をマチュー先生に伝えよう」		
本時のねらい	自分の好きなスポーツ選手の魅力を,その人物の功績や特徴に自分の気持ちを添えてマチュー先生へ伝える練習をする活動を通して,即興的に伝えることができるようにする。		
「問い」を生み出す工夫	○自分の好きなスポーツ選手の魅力がマチュー先生に伝わる発表をしよう。(題材の工夫) ○クラスメイトの発表のよいところから学ぼう。		
協議の柱	①授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は,学習者の主体性につながったか。 ②授業者が抱える問題(課題) 即興表現活動の中で,学習者が知識を積極的に使おうとしながら,正しさや良さを吟味し合う授業にするにはどうすればよいか。		

【授業の様子】

帯活動 偉人クイズ 表現方法を確認します



「何を紹介するか」端末で共有し、意見を発表します



話し手、聞き手、聴衆と役割を決めて活動します。



デジタル教科書で前時の学習内容を振り返ります



検索して情報を集め、発表する準備をします



他者の発表の優れた点を交流して、改善に役立てます



事後研報告

協議の柱	①授業者が設定した「問い」を生み出す工夫は、学習者の主体性につながったか。 ②授業者が抱える問題(課題) 即興表現活動の中で、学習者が知識を積極的に使おうとしながら、正しさや良さを吟味し合う授業にするにはどうすればよいか。
------	---

【授業者の振り返り】

話すことの中でも発表する力をつけさせたいと考え、「ALT に好きな選手の魅力を伝える」を活動の柱にして単元計画を立てた。その前段階の授業である。
 生徒がどのように伝えるか、発話の内容について困りを抱えていた。即興表現活動をどのように進めるかは私自身の課題である。

【質問】

質問	回答
「ALT に伝わる」とは何ができればよいかを共有できているか。	ALT に対して確認する表現をいれながら話すことができている。(やりとり) Do you know him? / be good at ~などが出ていたので良かった。
「話すこと」の活動に対して、普段どんな手立てをとっているか。	原稿を書いて覚えて伝えることもあるが、即興性が求められているため、その要素を踏まえて、マインドマップのみ使わせて伝えさせる方法をとることがある。メモをもとに話すようにしている。
発音の指導をどうしているのか	発音については 新出単語の練習、本文の中で音と音のつながりに着目させ日々の授業の中で指導している
「発表=スピーチ」というイメージがある。即興性はその場でやり取りする「対話」のイメージがある。今日のような活動は、「即興的」と言えるのか。	本当の意味での即興性とは言い難いが、段階的な指導の一つと考えている。本当の意味での「即興的なやりとり」に発展させたい。
「自分の気持ちを添えて」の部分は今日の授業の中で指導があったのか。	指導は不十分であったが、「He is great.」や「I think he is~.」などを用いていることで自分の気持ちを添えていると捉えることにした。「自分の気持ちを添えて」が、今日の授業の評価基準1つだったのもう少し丁寧に指導をすべきである。

【グループ協議】 授業者の困りを解決する手立てを考える。

※「魅力」の視点はどうだったか。(授業の中では長所・成し遂げたこと・知名度と設定した。)

※生徒の動きが良くなるにはどんな手立てをとればよかったか。

- 「だれ」について語るか決める時間を大事にするとよい。(自己決定の場合)
- 「魅力」とは何をさすのか、羽生選手のクイズのときにモデルを示す。
- 教科書の文を拾っている生徒がいたら、その生徒に発表させる。
- 言いたい表現がわからないにとって、教え合いの場を設ける。
- 伝えるのは、検索した「情報」ではなく「魅力」であることを意識して活動させるようにする。
- 即興するための引き出しとなる「インプット=聞く・読む」の部分を授業で積み重ねる。
- 「I」メッセージを大事にする
- 発表の手順をシンプルに整理する。(定期的に行い、自動で動くようにする。)
- C 層への手立てとして、何を教え合うか明確にする。
- 「過去形を使って伝えている姿」を披露する場面をつくる。

【指導助言】

学習指導要領から5つの領域になっている。(話すことが「発表」と「やり取り」に分かれた)大分県の中学校の課題、一番苦手としているのは「読む」と考える。英語の問題は、長文になっている。だから全ての英文を訳していくようなことはしない。英語教育は、過渡期を迎えている。

授業については、3つの視点で振り返ります。

- 「過去形を使わなくていいのか？」の質問について、日常会話では文法を意識していない。文法を使うこと自体を目的としないならば、使いたくなるような場面設定をすべきである。今日の授業では過去形を使わなくても好きなスポーツ選手について語る事ができた。例えば、「功績」とすると過去形を使うことになる。思考・判断・表現等に係る言語活動の授業では、授業者が場面や状況のなかで英語力を育成していくようにする。

指導要領にも「場面や目的を設定しましょう。」とある。今回、発信する相手である「マチュー先生」をどれだけの生徒が意識していたかということも押さえなくてはならない。今日生徒は意識していなかったと思う。

- 「自分の気持ちを添えて」の指導では、指導案の本時のねらいに「自分の好きなスポーツ選手の功績、特徴、自分の気持ち」とあるので3つを必ず指導しないといけない。ねらいとして設定したならば生徒に意識させて活動することを促すことが大事である。

- 指導と評価の一体化については、中間指導で「He is good at～」などを取り上げたのならば、2回目の発表後にできているかを見取る必要がある。1回目に功績や選手としての特徴に触れていなかった生徒が、2回目には、「Do you know him?」「He is good at full swing.」と言えることができていた。

単元指導計画にある評価(記録に残す評価)については、「書く」、「読む」はワークシート等記録に残るため可能であるが、「話す」に関しては机間巡視だけではやはり無理である。端末に録音させるなど工夫が必要である。記録に残す評価に絞ったのであれば、必ず評価できるようにする。指導したことを必ず評価して、評価しようとしたことを指導するようにすべきである。

【振り返り】

- よく準備をされた授業であった。生徒も一生懸命に頑張ろうとする様子がみられた。ねらいが膨らみすぎたため、授業者と学習者がすべきことを共有できず説明が長くなっていた。1時間の授業の中で英語表現を聞かせる読ませる場面や表現させる場面をもっと増やす工夫をすることが大切だと感じた。

- テンポが良く生徒がいきいきしながら活動していて良い授業だと思った。指導と評価の一体化についての話を伺い、「評価するなら指導を」「指導をするなら評価を」という言葉がとても印象に残った。

- 得意でない生徒も頑張っており、全体的に積極的に取り組んでいた。内容・活動が多かったため、広く浅くというような印象を受けてしまったが、これから改善して彼らの力をさらに伸ばしてほしいと思った。

- 生徒の活動をどのように仕組むと良いかを考えるきっかけになった。自分の授業改善に活かしたい。

- 英語の即興は非常に難しいと感じる。生徒の活動に対する指導と評価の責任を感じた授業であった。

- 国語科に、とても活きる授業を見せていただいた。言語活動の中で資質・能力を育成するという共通点をもつ教科として、大変勉強になった。

- 最初のクイズなど真似したい部分が多くあった。授業のスピードは、全体的に早いなと思った。行動を早くするためには、積み重ねが大事だと思う。

- 生徒と教師の「共に」が大事だと改めて感じた。日頃から教師と生徒との積み重ねが信頼関係につながる。